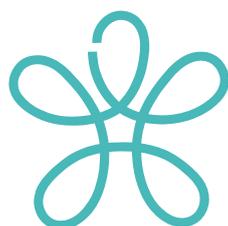


国際学部履修要項

2023

令和5年度



近畿大学

この履修要項は令和5年度国際学部入学生だけに適用されます。
履修要項は再配布しませんので、卒業まで大切に保管してください。
PDFデータを近畿大学国際学部のホームページからダウンロードすることも可能です。

目 次

はじめに	1
近畿大学教育方針	3
国際学部教育方針	4
I 学部の構成と制度	6
1. 国際学部の構成	6
2. 学期と授業時間	6
3. 授業科目の構成	6
4. 単位制	7
5. 学年制	7
6. 卒業	7
II 科目の履修・学修と単位の修得	7
1. 学修における注意点	7
2. メディア授業について	9
3. 履修登録と単位の修得	10
学年配当制	10
履修登録と履修計画	10
履修計画から単位修得までの流れ	10
通常履修・再履修	11
プリレクイジット科目	11
休学と単位修得	11
4. キャップ制	11
5. 休講と補講	11
気象警報および台風、地震等による交通機関の運行停止に伴う授業の取扱い	11
特別警報または暴風警報発表の場合	11
交通機関の運行停止の場合	12
補講について	13
6. 授業の出欠	13
7. 欠席届	13
8. 定期試験、追試験、再試験、および授業内実施の試験	14
定期試験	14
追試験	14
再試験	14
受験資格	14
不正行為等受験時の注意	14
授業内実施の試験	15
9. 国際学部追試験規程	15

10. 国際学部再試験規程	15
11. 国際学部における不正行為に関する規程	16
12. 成績評価と GPA 制度	17
成績評価	17
GPA (Grade Point Average) 制度	18
履修の取り下げ	18
成績通知および成績証明書について	18
成績照会	19
13. オフィス・アワーとアセンブリー・アワー	19
14. 授業評価アンケート	19
15. 掲示と UNIPA (学生ポータルサイト UNIVERSAL PASSPORT)	19
16. 学部で実施する TOEIC スコアシート等の取り扱い	19
III 留学	19
国際学部の留学	19
1. 留学の概要	19
2. 留学の準備と留学先の決定	20
3. 留学中の心得	20
4. 禁止事項・注意事項	20
5. 単位の互換と成績	20
6. 国際学部留学に関する規程	20
全学的な留学・語学研修	22
1. 交換留学・派遣留学・認定留学	22
2. 語学研修	22
IV 教職課程と日本語教員養成課程	22
1. 教職課程	22
2. 日本語教員養成課程	23
V 各種制度・案内	24
1. 学長賞、学部長賞等	24
2. 奨学金制度	24
3. 成績優秀特待生制度	24
4. 転学部	24
5. 休学・復学	24
6. 除籍・復籍・処分	24
7. 退学・再入学	25
8. 定期健康診断	25
VI 授業科目と履修方法	25

1. 全学共通科目（共通教養科目・外国語科目）：卒業・履修要件と授業科目表	25
卒業・履修要件：共通教養科目および外国語科目	25
授業科目表：共通教養科目	26
授業科目表：外国語科目	27
外国語科目履修上の注意	28
2. 専門科目（学部共通開講科目）：卒業・履修要件と授業科目表	28
卒業・履修要件：学部共通開講科目	28
授業科目表：学部共通開講科目	28
自由科目	28
履修上の注意	28
3. 専門科目（学部共通開講科目以外）：卒業・履修要件、進級要件と授業科目表	29
(1) グローバル専攻	29
卒業・履修要件	29
進級要件	29
授業科目表：セミナー科目・言語科目・留学科目・専門基礎科目・専門発展科目	29
履修の流れ	33
(2) 東アジア専攻 中国語コース	36
卒業・履修要件	36
進級要件	36
授業科目表：セミナー科目・言語科目・留学科目・専門発展科目	37
履修の流れ	38
(3) 東アジア専攻 韓国語コース	42
卒業・履修要件	42
進級要件	42
授業科目表：セミナー科目・言語科目・留学科目・専門発展科目	42
履修の流れ	44
4. カリキュラム表	47
VII カリキュラム・ツリー	49
グローバル専攻	49
東アジア専攻中国語コース	50
東アジア専攻韓国語コース	51
VIII 校舎・講義室等の配置図	52
18号館（1～5階）	52
教員研究室一覧	52
3号館（3～5階）	52
中央図書館案内	53
時間割表	54

はじめに

最近頻繁に耳にする「グローバル人材」とは一体どういう人を指すのでしょうか。言うまでもなく語学力はその必須条件ですが、語学力のみで世界で活躍することはできません。真のグローバル人材とは、(1) 高いコミュニケーション能力を有し、(2) 自文化と他文化を尊重し、かつ多面的に理解し、(3) 自主性と協調性を持って行動でき、(4) 幅広い教養と専門性を備えた人であると私たちは考えます。また、そうした人材を輩出するのが近畿大学国際学部の使命と考えています。

本学部が大学生活のきわめて早い時期に留学を課すのも、上で述べた資質を最大限に引き出し、かつ育むことを目指すからにはほかなりません。コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、他者を尊重する心、自主性や協調性といったものは、まさに留学という経験を通して最大限引き出されるものですし、幅広い教養と専門性はそれらの経験の上に培っていくものです。留学後の学習ではこれらの資質をさらに高め、世界中の人々と堂々と渡りあえる社会人となるべく準備をしていきます。

大学における学習とは単に必修科目をとり、単位を積み上げていくものと思われがちですが、これからの皆さんの学習基盤となるカリキュラムには、上で述べたグローバル人材育成という大きな目的が含まれていることを心に留めておいてください。それによって、より有意義な大学生活を送ることができることでしょう。

履修要項は皆さんが卒業するまでの4年間のacademic lifeの道しるべであり、またルールブックでもあります。まず通して読んでください。そしてスムーズな大学生活を送ることができるよう、常に手元に置いておきましょう。

最後になりますが、英語、中国語、韓国語でも「はじめに」を記載したので、是非自分の専修言語で読んでみてください。

Introduction

The term “Global Human Resources” is often heard these days, but what kind of people does this refer to? Needless to say, language skills are necessary, but these alone are not sufficient for success in the international arena. The true qualities of a global citizen include: 1) strong communication skills; 2) a deep respect and understanding of one’s own culture and the cultures of other countries; 3) the ability to act both autonomously and in cooperation with others; and 4) a grounding in both liberal arts and specialized subjects. It is the mission of the Faculty of International Studies at Kindai University to nurture and instill these qualities in all of our graduates.

To fully achieve this goal, all students in our program study abroad early in their university education. The study abroad program cultivates communication and presentation skills, fosters the ability to work autonomously and cooperate with others, and this experience facilitates learning in the liberal arts and specialized subjects. Upon return, the knowledge and skills acquired abroad will be further strengthened through studies and coursework in the faculty to thoroughly prepare graduates for active and effective participation in global society.

One might think that the objective of university education is to merely accumulate a certain number of course credits for graduation. However, students should bear in mind throughout their academic studies that the ultimate objective of this faculty’s curriculum is to develop the skills and talents outlined above in order that they will become global citizens. By so doing, students will experience a more fulfilling and meaningful university life.

Throughout the four years that you are enrolled in the university, you should use this Academic Handbook as both a guide for your academic life and as a rulebook. You should keep it at hand so that you can have a smooth academic career.

前言

“全球化人才”一词我们已经耳熟能详，但是，怎样的人才才可以称为“全球化人才”呢？语言能力固然是其必备的条件，但是，单凭语言能力还是很难在国际舞台上显露头角的。我们认为，真正的“全球化人才”应具有以下特质：一，拥有高度的沟通能力；二，尊重本国及他国文化、拥有接受多元文化的能力；三，拥有自主性和协调性；四，有较高的修养和较强的专业性知识。培养具有这些特质的“全球化人才”，正是近畿大学国际学部的使命。

为了迅速而有效地培养同学们的上述资质，我们学部将在入学的第一年安排所有同学去留学。因为沟通能力、表达能力、对异国文化的尊重以及自主性和协调性，只有通过留学体验才可以得到最好的培养和锻炼。而修养及专业性知识也是在此基础上才得以积累的。留学生活中培养的资质，在今后的学习生活中可以得到进一步的提升，为将来成为能与世界各国人士进行良好沟通的人才奠定基础。

大学的学习生活往往被认为是一个学习必修课程、积累所需学分的一个单纯的过程，其实并非如此。我们希望同学们牢记的是：近畿大学国际学部课程设置中的每一个环节都是以培养具有上述特质的“全球化人才”为目的的。相信在这样的方针指引下，大家一定会在这里渡过更有意义的大学生活。

本“履修要项”是4年学术生活指引方向的航标、行为规范的准绳，也是顺利渡过大学生活的保障。请大家务必仔细阅读，并随时带在身边。

머리말

요즘 자주 듣는 “글로벌 인재”란 대체 어떤 사람을 두고 하는 말일까요?

물론 외국어 능력은 필수 조건이지만 외국어 능력만으로 글로벌 세계에서 활약하기는 어렵습니다. 진정한 글로벌 인재란, (1) 뛰어난 의사소통 능력을 가지고, (2) 자국 문화와 타국 문화를 존중하면서 다면적으로 이해하고, (3) 자주성과 협조성을 가지고 행동할 줄 알며, (4) 폭넓은 교양과 전문성을 갖춘 사람이라고 저희들은 생각합니다. 그리고 이러한 인재를 양성하여 배출하는 것이 킨키대학교 국제학부의 사명이라고도 생각하고 있습니다.

국제학부가 대학생활 초기에 1년간 유학을 정규과정으로 정한 것도 앞서 말한 자질을 최대한 끌어냄과 동시에 육성하는 것을 목표로 하기 때문입니다. 커뮤니케이션 능력과 프레젠테이션 능력, 남을 존중하는 마음, 그리고 자주성과 협조성이라는 것은 유학이라는 경험을 통해 최대한 끌어낼 수 있는 것이며, 폭넓은 교양과 전문성도 유학의 경험으로 인해 길러지는 것입니다. 유학 후의 학습에서는 이러한 자질들과 폭넓은 교양과 전문성을 더욱 높여 전세계 사람들과 당당하게 자기 의견을 표현할 수 있는 사회인이 될 수 있도록 준비해 갈 것입니다.

대학에 있어서의 학습이란, 단지 필수 과목을 이수하고 학점을 받는 것으로 생각하기 쉽지만, 앞으로 여러분의 학습 기반이 될 교육 과정에는 앞서 말한 글로벌 인재 육성이라는 큰 목적이 포함되어 있음을 명심하기 바랍니다. 그에 따라 더욱 의미있는 대학 생활을 보낼 수 있을 것입니다.

이수요항은 여러분이 졸업할 때까지 4년간의 academic life 도표이며 또한 규칙집이기도 합니다. 먼저 전체를 읽어 보십시오. 그리고 원활한 대학생활을 보낼 수 있도록 항상 곁에 두십시오.

끝으로 영어, 중국어, 한국어로도 ‘머리말’을 기재하였기 때문에 꼭 자신의 전공 언어로 읽어 보십시오.

近畿大学教育方針

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

本学は、「建学の精神」と「教育理念」を実現するために、「全学共通科目」と「専門教育科目」を2本柱として、各学部学科の特色を生かしたカリキュラムを提供します。また、ボランティア、インターンシップ、各種資格取得講座などのプログラムを展開し、全教職員が、学生の学問的、人間的成長とキャリア形成を支援します。さらに、生涯学習社会実現のために、学生と社会人と教員が共に学び合う機会を提供します。これらにより、学生はディプロマ・ポリシーにある資質及び能力を以下のように身に付けます。

1. 全学共通科目および学部基礎科目では、文系・理系の枠を超え、入学者の基礎学力の確認と向上を図るプログラムを提供し、各学部における専門分野の学問へ導くとともに、学問する習慣を身に付けます。
2. 専門教育に携わっている教員が教養教育（全学共通科目）に参加して、実学（専門教育）と教養の運動ないし融合を視野に入れた授業を提供します。これにより、教養と専門教育の意味を幅広い視野から理解し、学ぶ意義と意欲を体得します。
3. 「専門教育科目」においては、社会のニーズに対応できる教養に裏打ちされた専門性を高める工夫を進め、社会に貢献できる知識と技能、探求心を身に付けます。また、必要に応じて他学部との単位互換制度等を活用し、複眼的な専門性を育成します。
4. さまざまな国際分野で活躍できる人材を養成するため、グローバル教育の充実を図り、国際社会が共有する目標と文化的多様性の価値を理解し、国際感覚を身に付けます。さらに、海外の教育機関等との提携による国際スタンダード教育への参加を進めます。
5. 産学連携を推進し、生きた実学教育の充実を図ります。社会人の学びの場（リカレント教育）を充実し、生涯学習社会の実現に貢献します。学生の資格取得のために、学部横断的な取り組みを展開します。ボランティア、インターンシップ、留学制度等を充実し、学生が地域社会、国際社会において意味のある学びを体験できるよう努めます。これにより、社会貢献の意義と使命感を体得し、常に自らを高める自己教育力を身に付けます。
6. これらの達成度および学修の成果は、別に定める「評価の方針」によって評価を行います。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学は、「建学の精神」と「教育理念」に基づいて、「深い教養と高い志をもち、社会を支える気概をもった学生を育成し、社会に送り出すこと」を最終教育目標としています。厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質を以下に示します。

1. 大学での種々の学びを通じて、「人に愛され、信頼され、尊敬される」人格へと自らを成長させ続ける自己教育力を培っていること。
2. 問いながら学ぶ「学問」習慣を身に付け、専門領域における知識・技能を修得し、それらに裏打ちされた探究心と社会貢献への使命感に目覚めていること。
3. 専門領域における課題の意味を、広い歴史観や深い人間観の中で位置づけようとする教養を、身に付けていること。
4. 異質な価値や文化を理解し、自国の伝統や文化の意味を再発見する国際感覚を、身に付けていること。

国際学部教育方針

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

国際学部は、国際人としてふさわしい語学力、教養、専門性をもち、多様性の中で積極的に行動する力を養成するために、以下のようなカリキュラムを編成しています。

<全学共通科目：共通教養科目>

ますます複雑化するこれからの社会を主体的に生きるため、「人間性・社会性科目群」、「地域性・国際性科目群」、「課題設定・問題解決科目群」、「スポーツ・表現活動科目群」に属する各科目の履修を通じて、幅広い教養と多面的な視点や知識、能力を修得することができます。また、日本語、日本国憲法、日本と世界の歴史、地理、国際文化などを扱う科目の履修を通じて、自らの文化・社会を理解しつつ、グローバル社会を多面的に捉える力を身につけます。

さらに、情報処理技術を扱う科目の履修によってICT技術を活用する能力を高め、少人数の導入クラスである「基礎ゼミ」の履修によって、自ら課題を設定し問題を解決する力を身につけることができます。留学から帰国後は、自らの進路を見据える力や社会で求められる能力の獲得を重視し、キャリア形成のための知識や実践力、数理的知識を身につけるための科目を配置しています。

<全学共通科目：外国語科目>

専攻する言語（専修言語：英語、中国語、韓国語）に加えて、もう一つの外国語科目（ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語、タイ語、ベトナム語、英語（東アジア専攻の学生のみ））を選択して履修することができます。それぞれ、「入門」、「基礎」、「中級」、「上級」の4つの段階（英語については「1～4」の4つの段階）を置き、2年次後期から4年次前期にかけて週2回（A・B）の授業が行われます。

これらを積極的に受講することで言語の意味や構造に関する理解が深まるとともに、専修言語に加えてもう一つの外国語の運用力が高まり、グローバル社会の中でいっそう求められる人材に成長することが期待されます。

<専門科目：学部共通開講科目>

留学前の1年次前期には、「留学セミナー」で国際学部のカリキュラムの根幹である留学制度に対する知識と自主的に取り組む姿勢、危機管理の知識などを身につけます。また、異文化への柔軟な視点を育むため「異文化理解」を設置しています。

帰国後には、「専門導入セミナー」によって専門教育への導入を図ります。また、ビジネスライティングや日本語教育に関する科目によって将来の進路を見据えた知識を修得し、「日本語教育実習」、「インターンシップ」、「体験プログラム」などの体験を通じて学修する選択科目を配置しています。

<専門科目：セミナー科目>

3年次と4年次の「セミナー1」、「セミナー2」、「セミナー3」、「セミナー4」では、同じ教員の指導を受けながら、少人数の学修環境で議論し、テーマを決めて探求する体験を積むことで、専門性を身につけることができます。各自のテーマに沿って学修の成果をまとめ、成果物として提出します。

<専門科目：言語科目・留学科目>

各専攻の専修言語の運用能力を高めます。英語は、留学前に基礎を確認しつつ表現力を強化し、留学で実践力を磨き、帰国後の学修で応用力を身につけます。中国語と韓国語は初修言語であるため、入門レベルから始め、留学によってコミュニケーション力を身につけ、最終的にはさまざまな状況で有意義なコミュニケーションが行えるレベルに到達することができます。

1年次後期から2年次前期にかけての留学中は留学科目を履修し、自身のレベルに応じた語学の習得と異文

化における学修体験を積むことができます。留学中は現地の受け入れ大学・教育機関と緊密に連携し、実りある留学体験をサポートします。

帰国後も、専修言語について、使用場面や目的に特化した運用力を高めるための科目を設置しています。

＜専門科目：専門基礎科目・専門発展科目＞

グローバル社会で様々な背景を持つ人々と信頼関係を築き、活躍するために必要な知識や技能を修得し、多様な考え方や価値観を学ぶための科目を設置しています。異なる文化や社会の架け橋となる人材にふさわしい態度や思考力・判断力を醸成するために、知識の蓄積を目的とした講義だけでなく、対話や交流を通じ協同して探求する科目、小規模のクラスで特定のトピックを扱う「特殊講義」、通訳や翻訳の実践的な演習などを体系的に配置しています。

グローバル専攻では、2年次の専門基礎科目で基礎的知識を学び、3年次より「コミュニケーション・実践領域」、「言語文化領域」、「国際関係領域」、「人文社会領域」に分かれ、それぞれの科目を履修することで専門性を深めることができます。東アジア専攻では、中国語コース、韓国語コースとも、中国、台湾、韓国の地域、文化、言語などについて、基礎から応用へと順を追って専門知識を身につけられるように科目を配置しています。また、グローバル専攻の専門基礎・専門発展科目を履修することもできます。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

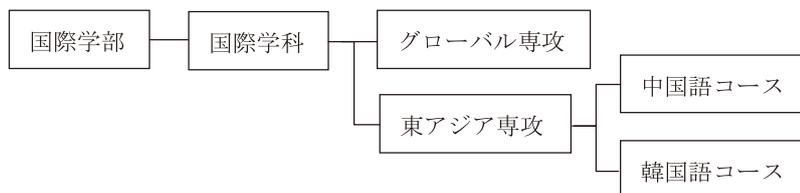
国際学部では、近畿大学の建学の精神と教育理念に基づき、留学と多彩な科目の学修を通して、国際人としてふさわしい語学力、教養、専門性を身につけ、異なる文化や社会の架け橋となる人材の育成を目標としています。この目標のために、厳格な成績評価によってカリキュラムを運営し、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士（国際学）の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質や能力は、以下のとおりです。

1. 幅広い教養と国際的な体験にもとづいて、柔軟な考え方や判断ができること。
2. 自らの専門分野についての学識を有し、課題解決が行えること。
3. 専門とする言語の意味や構造を十分に理解し、高いコミュニケーション能力を身につけていること。
4. グローバル社会において、自らのアイデンティティを意識し、言語・文化・考え方の違いを乗り越え、他者との信頼関係を構築できること。
5. 多様な考え方や価値観の存在を認め、それを踏まえた対話を通し、よりよい価値を生み出す努力ができること。

I 学部の構成と制度

1. 国際学部の構成

国際学部の構成は、以下のとおりです。



2. 学期と授業時間

学期は、「前期」と「後期」の二期に分かれています。

第1学年	前期	後期（留学）
第2学年	前期（留学）※	後期
第3学年	前期	後期
第4学年	前期	後期

一部を除いたほとんどの科目は、前期または後期の半年間履修することによって完結します。前期・後期の授業開始および終了日は毎年変わるので、日程は学生ポータルサイト（UNIVERSAL PASSPORT（以下UNIPA））等で連絡します。

※ 国際学部では専攻によって留学期間が異なるため、帰国後の授業開始時期も異なります。グローバル専攻では、第2学年前期の後半からいくつかの科目の授業が始まり、東アジア専攻では、第2学年後期から授業が始まります。

授業は原則として第1時限から第5時限まで開講されます。ただし、一部の共通教養科目や教職課程科目については第6、7時限に開講される場合があります。各時限の時間帯は以下のとおりです。

1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
9:00～10:30	10:45～12:15	13:15～14:45	15:00～16:30	16:45～18:15

6 時限	7 時限
18:25～19:55	20:05～21:35

また、上記の授業時間帯以外に集中講義科目等が開講される場合があります。オンデマンド科目は特定の曜日時限に限らず、自由に学修することができます。

3. 授業科目の構成

国際学部の教育課程では、次に示す科目区分があります。大半の科目区分には、必ず単位を修得しなければならない科目（必修科目）と、指定された方法で選択して単位を修得する科目（選択科目）があり、卒業や進級に備えて計画的に履修しなければなりません。

	グローバル専攻	東アジア専攻
全学共通科目	共通教養科目（必修科目あり）	共通教養科目（必修科目あり）
	外国語科目	外国語科目
専門科目	学部共通開講科目（必修科目あり）	学部共通開講科目（必修科目あり）
	セミナー科目（必修科目あり）	セミナー科目（必修科目あり）
	言語科目（必修科目あり）	言語科目（必修科目あり）
	留学科目	留学科目
	専門基礎科目	
	専門発展科目	専門発展科目（必修科目あり）

※この他に卒業要件に含まれない「自由科目」も開講されます。「VI授業科目と履修方法」を参照のこと。

4. 単位制

近畿大学では「単位制」を採用しています。履修登録を行い、授業に出席し、試験その他の方法で成績の評価を受けて合格点を得た場合に、所定の単位が授与されます。単位の計算基準は、次のとおりとします（科目の具体的な単位数は、授業科目表を参照してください）。

- (1) 講義は、毎週1時限の授業を半期で2単位とする。
- (2) 実習および演習による科目は、科目の授業時間数に応じて半期で1～3単位とする。
- (3) 留学科目については、科目の性質に応じて1～4単位とする。

5. 学年制

近畿大学では「学年制」を採用しています。本学の修業年限は4年とします。4年を超えて在学することはできませんが、8年を超えて在学することはできません。学年制では、「第1学年」「第2学年」「第3学年」「第4学年」しか存在しません。在学年数が直ちに当該「学年」を意味するわけではありません。したがって、たとえば、在学年数が4年であっても単位数が進級要件を満たさなければ第3学年生ということがあります。

6. 卒業

近畿大学に4年以上在学し（ただし、各学年前期・後期の1年以上在学すること）、所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得して卒業資格を得た者には、卒業証書・学位記を授与します。

II 科目の履修・学修と単位の修得

1. 学修における注意点

授業や指示された授業外の課題、レポート、論文、試験など、大学ではさまざまな学問的な活動があり、それらには誠実な態度で取り組まなければなりません。下記をよく理解した上で、国際学部での学修に臨んでください。

(1) 授業の出欠について

- ① 成績評価において、出席点というものはありません。これはすべての授業に出席することが当然のことであると考えられているからです。また、出席の要件を満たしていても、単位修得が保証されるわけではありません。
- ② 国際学部では、授業担当教員から異なる指示がある場合を除いて、授業回数の3分の1以上欠席をした場合、当該授業の試験等の受験資格、レポート等の提出資格を失うなど、成績評価の対象となりません。
- ③ 授業の出欠に関する取り決めは、「シラバス」に記載されるか、学期冒頭に授業担当教員から示されます。
- ④ 授業に出席していないのに出席したように報告すること、また、他人の協力を得たり、ICカードリーダーによる出欠管理システムを悪用したりして出席を装う行為は厳に禁止します。このような行為があった場合は、「11. 国際学部における不正行為に関する規程」に従って処分されます。軽い気持ちで出席を偽り、単位と信用を失わないようにしてください。
- ⑤ 授業担当教員から異なる指示がある場合を除いて、履修登録期間の授業もその学期の出欠状況のカウントに含まれます。履修するかどうかは初回授業に出て決めるのではなく、シラバスと履修要項を読んで決めてください。

(2) 授業の受講について

- ① 授業中は学修に専念すること。無許可の飲食、携帯機器の操作、私語、他の学生の学習権を侵害する行為をしてはいけません。これらの行為によって授業の進行を妨げた場合、以後の受講を認めないことがあります。
- ② 授業の受講に関する取り決めは、「シラバス」に記載されるか、学期冒頭に授業担当教員から示されます。

(3) 成績評価について

成績は、「シラバス」に記載されているか、学期冒頭に授業担当教員から示される評価基準のみによって評価されます。

(4) 課題への取り組みについて

- ① 課題の提出期限を遵守すること。期限を過ぎた提出物は原則として受理されません。提出期限の確認を怠らないこと。
- ② 課題への取り組みにおける以下の行為またはそれらと同等と解される行為は不正行為となります。
 - 1) 単独で行わなければならない課題を他人の協力を得て行うこと（行為に協力した場合、協力者も同様に不正行為を行ったと見なされます）。
 - 2) 代行業者や無許可でチャットボットなどのAI（人工知能）を利用して作成したレポートや論文などを、自分で作成したものとして提出すること。
 - 3) 授業担当者からの許可なくインターネット上の翻訳サービスを利用し、レポートや論文を作成すること。
 - 4) オンラインその他の手段により、課題の問題・解答などを公開および共有し、またはそのようにして共有された情報を用いて課題に解答すること。不正行為は、厳重に処分されます。「11. 国際学部における不正行為に関する規程」を参照。

(5) 剽窃・改ざん・捏造について

- ① 他人の文章、アイデア、発見、データ、図表、作画、写真などを、それが他人のものであることを示さずに自分のレポートや論文、プレゼンテーションなどで使うことは、意図的かどうかを問わず、「剽窃（ひょうせつ）」と呼ばれ、学問の世界では重大なルール違反です。友人が書いたレポート等を写す行為は剽窃ですし、ネット上の情報を自分のレポートに貼り付けてしまう行為、いわゆる「コピペ（コピー＆ペースト）」も剽窃です。他人の文章を自分で入力しても剽窃になりますし、文章は自分で作ったとしても、そのアイデアが他人のものであることを示さずに使えば剽窃です。また、自分で作成したレポートや論文、プレゼンテーションであっても、複数の授業で同じものを重複して提出すれば剽窃（自己剽窃）と見なされます。剽窃は倫理に反することであり、著作権を侵害するなど法に触れる場合もあります。学生として絶対に行ってはいけない不正行為です。
- ② 存在しないことや事実でないことを、まるで存在し、事実であるかのように述べることは「ねつ造」、事実や実際の結果を都合よく変えることは「改ざん」と呼ばれ、「剽窃」と同様に決して行ってはなりません。
- ③ 剽窃（盗用）、ねつ造・改ざんに該当する行為を行った場合、厳重に処分します。「11. 国際学部における不正行為に関する規程」を参照。
- ④ レポートやプレゼンテーションなどでは、様々な文献を「引用」することがあります。文献を引用することは大切で、これは「剽窃」とは全く異なる正当な行為です。引用には、「自分の文章と他人の文章を明確に区別する」こと、「引用部分が主にならない」こと、「出典を明示する」ことなど厳格なルールが存在します。詳細については、『基礎ゼミハンドブック』の「泥棒にならないための重要なルール（6-7. 図書館で資料を探す）」、「書籍・論文を引用する」、近畿大学中央図書館学修サポート「レポートの書き方」や「ダメなコピペ・パクリ≡「剽窃（ひょうせつ）」について」などを参照。
- ⑤ 引用の方法は、『基礎ゼミハンドブック』の「書籍・論文を引用する（10. レポートを書く（1）：引用の方法）」に準拠すること。

(6) 定期試験および授業内テストの不正行為について

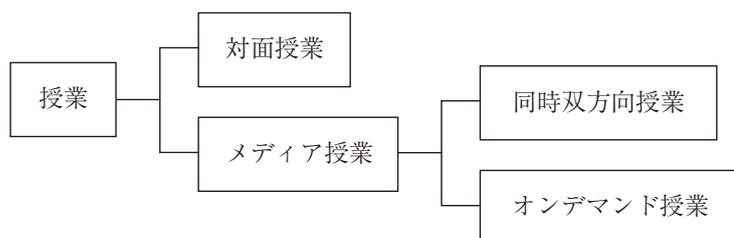
定期試験および授業内テストにおける以下の行為またはそれらと同等と解される行為は不正行為となります。

- ① 他人の答案を覗き見て写すこと。
- ② カンニングペーパーを使用すること。
- ③ あらかじめ机・その他のものに試験に関することを書き込むこと。

- ④ 許可されていない教科書・ノート・コピー・スマートフォン、ウェアラブル端末等を利用し、または利用できる状態にすること。
 - ⑤ 本人に代わって受験すること。
 - ⑥ SNSやその他の手段により、試験の問題・解答などを公開および共有し、またはそのようにして共有された情報を用いて試験に解答すること。
- 不正行為は、厳重に処分されます。「11.国際学部における不正行為に関する規程」を参照。

2. メディア授業について

授業には、「対面授業」と「メディア授業」があり、メディア授業には「同時双方向（リアルタイムオンライン）授業」と「オンデマンド授業」があります。



(1) 対面授業

時間割表に指定された曜日時限に、指定された教室で受講する授業です。

(2) 同時双方向授業（リアルタイムオンライン授業）

時間割表に指定された曜日時限に、インターネットを介してZoomなどのオンラインツールを使い、同時双方向的に遠隔授業を行います。教室での授業がそのままオンラインに移行したような形態の授業です。

(3) オンデマンド授業

指定されたスケジュールで動画などの教材が配信され、それを任意の時間に視聴・閲覧して、指示された方法で学修を進める授業です。学部開講の授業と大学全体で開講する「KICSオンデマンド授業」があります。

メディア授業受講の手順

同時双方向授業では、履修登録が完了すると、UNIPAの掲示機能で科目のGoogle Classroom等（以下GC）の「クラスコード」などの情報を見ることができます。GCへの参加（登録）など、必要な対応をして、指示に従ってください。オンデマンド授業でもGCを使用する場合がありますが、大学全体で開講する「KICSオンデマンド科目」は、別のシステムを使用します。UNIPAで配信される周知事項を確認して対応してください。

メディア授業受講の注意事項

- (1) 受講に必要なインターネットの接続を確保し、ZoomやGoogle Classroomその他受講に必要なツールを使用できるようにするのは、各自で行ってください。各ツールの使用方法の確認不足や通信状況の不具合により課題や試験の解答を送信できなかった場合の不利益については、自己責任となります。十分に余裕をもって機材や接続の準備と確認をしてください。
- (2) メディア授業でも、対面授業と同じように、指示された通りに出席しなければなりません。出欠確認の方法は各授業担当教員から指示されます。単位修得のための出欠要件についても、各授業の教員からシラバスや学期冒頭の授業などで指示があります。
- (3) 移動中やアルバイト中、作業中など学修にふさわしくない環境での受講は禁止します。特に、移動中や

自動車運転中などの受講は危険ですから絶対にしてはなりません。このような環境での受講が分かれば、受講を中断し、欠席扱いとします。

- (4) 対面授業と同じように、メディア授業でも、不正行為は「国際学部における不正行為に関する規程」により処分されます。詳しくは、履修要項の「11. 国際学部における不正行為に関する規程」を参照してください。
- (5) メディア授業では、教員が受講状況を直接確認できません。教員の呼びかけに返答をしない、議論に参加しないなど、受講状況が確認できない場合は欠席となる場合があります。
- (6) 下記の行為は禁止されていますから、行ってはなりません。
 - ・会議アプリや学習管理システム（Zoom、Google Classroom等）の参加URLやパスワード、クラスコードなど、履修者にのみ配布される情報を不適切に管理・使用すること。
 - ・メディア授業で提供されるもの（動画、静止画、音声、教材、チャット等）を担当教員や出席者の許可なく記録すること。
 - ・以上の行為に加え、それらを第三者へ開示・共有・インターネットを介して公衆送信すること。

3. 履修登録と単位の修得

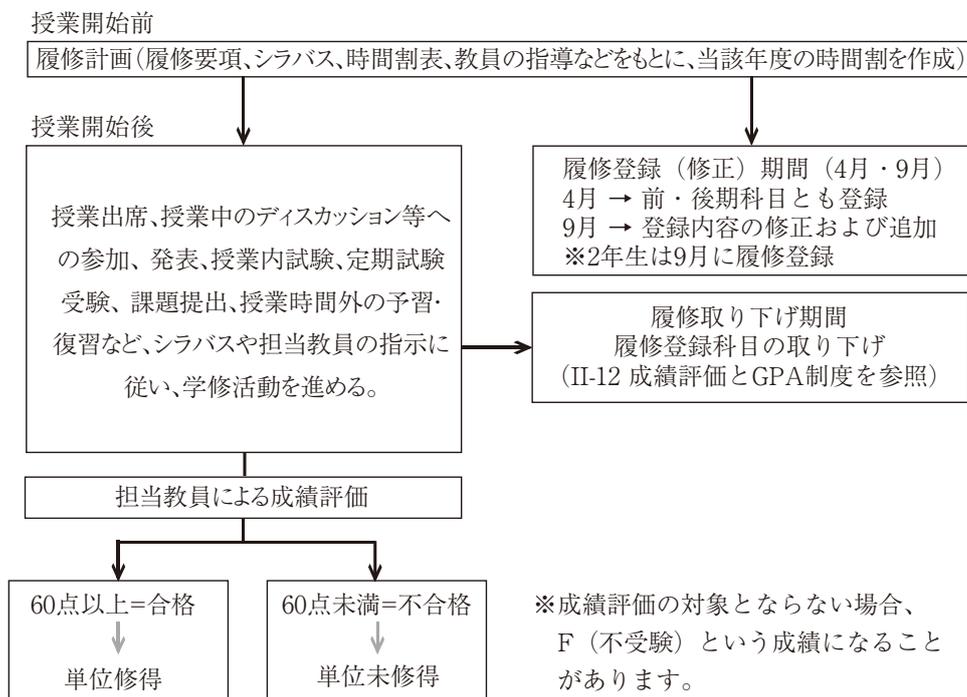
学年配当制

大学の科目は「学年配当制」に基づいています。学年配当制では、当該科目の配当学年より上級の学年生はその科目を履修できますが、下級の学年生は履修できません。たとえば、第2学年に配当されている科目について、第1学年生はこれを履修できませんが、第2・3・4学年生は履修できることになります。

履修登録と履修計画

科目を履修するには、あらかじめ履修登録をすることが必要です。履修登録は、当該学年1年間（前期・後期）の科目を毎年度4月（第2学年生は帰国後）の履修登録期間にUNIPAのWEB履修登録により一括して登録します。また、後期分については、9月の履修登録修正期間に登録・修正することもできます（クラス分けのある必修・抽選科目を除く）。科目によっては、シラバス記載の授業の目的を達成するため、適正なクラスサイズを確保する必要がある場合は抽選による履修者数の制限を行うことがあります。履修登録期間および方法等の詳細については、別途履修ガイダンスやUNIPA等を通じて説明します。年度始め（第2学年生は帰国後）の履修ガイダンスには必ず出席してください（第4学年は実施しません）。

履修計画から単位修得までの流れ



通常履修・再履修

科目の履修は、当該年度に担当された科目を履修する「通常履修」と、前の学期や年度に単位を修得できなかった科目を再び履修する「再履修」とに分けられます。不合格科目については、その科目が必修科目の場合は再履修する必要がありますが、必修科目でない場合は、必ずしも再び履修する必要はありません。また、すでに単位を修得した科目を再び履修することはできません。

プリレクイジット科目

ある科目を履修するために、別の科目の単位をすでに修得済みであることが求められることがあります。このような履修の前提となる科目は「先修科目（プリレクイジット科目）」と呼ばれ、発展的な科目を理解するための前提となる基礎的な内容を扱う科目が指定されます。第3・4学年で履修するグローバル専攻専門発展科目の「特論科目」には、先修科目が指定されていることがあります。第2学年の段階で、翌年度以降に履修したい専門発展科目の特論科目に先修科目が設定されているかを確認し、計画的に履修してください。先修科目は履修ガイダンスや、(令和6年度以降は)シラバスなどで周知されます。

休学と単位修得

休学期間中は、本学の科目を履修し単位を修得することはできません。また、休学期間中に個人的に留学し修得した海外の大学等での単位は本学部では認定されないので注意してください。

4. キャップ制

前期・後期に履修登録できる単位の上限を設定する制度を「キャップ制」と呼びます。その目的は、履修した科目の学習時間（予習・復習を含む）を確保し、授業内容を十分に身につけるため過度に多くの科目を履修しないようにするためです。国際学部ではこのキャップ制を採用し、履修登録できる単位の上限を原則として各学期24単位とします。ただし、下記のGPA基準（※）をクリアしている学生は上限を26単位とします。また、下記科目（※※）等はキャップ制の履修登録単位に含まれません。

※履修登録単位数上限を26単位とするためのGPA基準

第2学年3.7以上、第3学年3.5以上、第4学年3.5以上

※※キャップ制除外科目

- ①学部共通開講科目：「体験プログラムA」、「体験プログラムB」、「インターンシップA」、「インターンシップB」、「大学コンソーシアム大阪の各科目」
- ②教職課程科目のうち、卒業要件に含まれない科目
- ③日本語教員養成課程の自由科目

5. 休講と補講

気象警報および台風、地震等による交通機関の運行停止に伴う授業の取扱い

暴風警報等が発表された場合および台風や地震等により交通機関が運行停止となった場合、授業の取扱いについては、学内規程「気象警報及び台風・地震等による交通機関の運行停止に伴う授業の取扱いについて」に基づき以下のとおりとします。ただし、居住されている地域の被災により避難指示（緊急）・避難勧告が発表された場合や公共交通機関が運行停止等になり登校できない場合は、欠席による不利益がないよう配慮しますので、身の安全を最優先に考え、適切な行動をとってください。また、以下の事例以外に特別な事態が生じた場合にも授業の短縮や休講となる場合があります。

特別警報または暴風警報発表の場合

特別警報または暴風警報が以下のいずれかの地域に発表された場合は次のとおり休講とします。ただし、特別警報が発表された場合は終日休講とします。また、特別警報または暴風警報が授業時間中に発表された場合は、授業を中止して休講とします。

(1) 警報発表対象地域

大阪府：大阪市、北大阪（豊中市・池田市・吹田市・高槻市・茨木市・箕面市・摂津市・島本町・豊能町・能勢町）、東部大阪（東大阪市・守口市・枚方市・八尾市・寝屋川市・大東市・柏原市・門真市・四條畷市・交野市）、南河内（富田林市・河内長野市・松原市・羽曳野市・藤井寺市・大阪狭山市・太子町・河南町・千早赤阪村）、泉州（堺市・岸和田市・泉大津市・貝塚市・泉佐野市・和泉市・高石市・泉南市・阪南市・忠岡町・熊取町・田尻町・岬町）

兵庫県：阪神（神戸市・尼崎市・西宮市・芦屋市・伊丹市・宝塚市・川西市・三田市・猪名川町）

奈良県：北西部（奈良市・大和高田市・大和郡山市・天理市・橿原市・桜井市・御所市・生駒市・香芝市・葛城市・平群町・三郷町・斑鳩町・安堵町・川西町・三宅町・田原本町・高取町・明日香村・上牧町・王寺町・広陵町・河合町）、五條・北部吉野（五條市北部・吉野町・大淀町・下市町）

京都府：京都・亀岡（京都市・亀岡市・向日市・長岡京市・大山崎町）、山城中部（宇治市・城陽市・八幡市・京田辺市・久御山町・井出町・宇治田原町）、山城南部（木津川市・笠置町・和束町・精華町・南山城村）

(2) 暴風警報解除時刻と授業開始時限

解除時刻	授業開始時限
6時00分時点で解除	1時限目から実施
10時00分時点で解除	3時限目から実施
13時00分時点で解除	6時限目から実施
13時00分時点で警報発表中	全時限休講

※6時00分時点で特別警報が発表されている場合は解除時刻にかかわらず終日休講

特別警報が発表された場合、該当地域は数十年に一度しかないような非常に危険な状況にあります。自宅や通学中の学生で特別警報が発表された地域にいる場合は、特別警報の種類は問わず、自身の判断により命を守るために最善と思われる行動をとってください。ただし、特別警報発表時に大学構内にいる学生は、大学の指示に従って行動してください。

交通機関の運行停止の場合

台風・地震等により以下に該当するいずれかの交通機関が全面的に運行停止となった場合、運行が再開された時刻により次のとおり休講とします。ただし、当該交通機関での事故等による一時的な運行停止は対象とならないので注意してください。

(1) 対象交通機関

[台風・地震等の災害による運行停止]

- ① 近鉄「大阪線」「奈良線」が同時に運行停止になった場合
- ② JR西日本（※参照）、南海、阪急、阪神、京阪、大阪メトロのうち2以上の交通機関が同時に運行停止になった場合

※JR西日本は大阪環状線、京都線（京都～大阪）、神戸線（大阪～姫路）、学研都市線（京橋～木津）、東西線（京橋～尼崎）、宝塚線（大阪～新三田）、ゆめ咲線（西九条～桜島）、大和路線（加茂～JR難波）、阪和線（天王寺～和歌山）、おおさか東線（新大阪～久宝寺）を対象とします。なお、JR西日本のみで2以上の路線が運行停止となった場合は休講の対象となりません。

[ストライキによる運行停止]

- ① 近鉄が運行停止になった場合
- ② JR西日本、南海、阪急、阪神、京阪、大阪メトロのうち2以上の交通機関が同時に運行停止になった場合

(2) 運転再開時刻と授業開始時限

運転再開時刻	授業開始時限
6時00分時点で再開	1時限目から実施
10時00分時点で再開	3時限目から実施
13時00分時点で再開	6時限目から実施
13時00分時点で運行停止中	全時限休講

補講について

補講は、休講があった科目について、本来の時間割とは異なる日程で調整し実施されます。日程や教室についてはUNIPAにてお知らせします。日程・教室等は変更になる場合がありますので、随時確認してください。

6. 授業の出欠

教室での出欠管理はICカードリーダーで行います。出席登録は教室の入口近くにあるICカードリーダーに学生証をかざすことで行います。学生証は常に携帯し、授業の開始時には忘れずに出席登録をしてください。授業担当教員から別に指示がある場合を除き、授業開始時刻より5分後以降は遅刻となり、30分後以降は欠席となります。学生証を忘れた場合は、授業開始前に教員へ申し出てください。後になって申し出て対応できません。

また、履修登録期間中に学生証をかざした場合、ICカードリーダーには「未登録」として赤く表示されますが、UNIPAで履修登録をしていれば履修登録期間終了後にその登録は正規の出席として読み替えられます。履修登録期間中も必ず出席登録をしてください。

7. 欠席届

病気・ケガ等で欠席した場合は、UNIPAに掲示している欠席届のフォーマット（所定の様式）に入力のうえ、欠席理由を証明する書類の写真やPDFファイルと共に、国際学部欠席届提出フォームから申請してください。確認後、学生センターの受付印を押したPDFファイルを返送しますので、各自で授業科目担当教員に提出してください。

手続きは欠席後1週間以内に行ってください。やむを得ず証明書類が準備できない場合は1週間後でも受け付け可能ですが、授業終了直前（学期末）の欠席については速やかに手続きしてください。

病気等・・・医師による診断書、またはインフルエンザ等の学校保険安全法における感染症の場合はその治療証明書（診断書・治療証明書には必ず欠席する必要がある期間を記載してもらうこと。例：○月○日から3日程度）。

※インフルエンザの診断を受けた場合は、発症した後5日を経過し、かつ解熱した後2日を経過するまで出席できません。

忌引き（三親等以内）・・・会葬礼状や葬儀施行証明書など、忌引きの事実を証明できるもの。

親等	続柄	欠席可能日数 (土,日,祝を含む)
一親等	父母	7日
二親等	祖父母、兄弟姉妹	3日
三親等	曾祖父母、伯父母、叔父母	2日

なお、教育実習および介護等体験による欠席届は大学院・共通教育学生センターで、課外活動（試合参加等）の場合は学生部等で手続きし、各自で授業科目担当教員に提出してください。

※欠席届は、上記のやむをえない理由による欠席であったことを担当教員に報告するものです。欠席取消などの処理にはなりません。その出欠記録上の扱い等については各授業の担当教員に確認してください。

8. 定期試験、追試験、再試験、および授業内実施の試験

試験には、「定期試験（前期試験、後期試験）」、「追試験」、「再試験」および「授業内実施の試験」があります。

定期試験

定期試験とは、各学期末に、履修登録済みの科目において実施される試験のことをいいます。定期試験の時間帯は以下のとおりです。授業時間帯とは異なりますので、注意してください。

1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限	6 時限	7 時限
9:30～10:30	11:00～12:00	13:30～14:30	15:00～16:00	16:45～17:45	18:30～19:30	20:00～21:00

追試験

追試験とは、病気や不慮の事故等の正当な理由により定期試験を欠席し、指定された期間に所定の申請書を提出し、審査により認められ追試験受験料を納入完了した者が受験することができる試験のことをいいます。

詳しくは「9. 国際学部追試験規程」を参照してください。

再試験

再試験とは、第4学年に在籍し、当該年度の後期成績が発表された時点で卒業所要単位を満たしていない学生に対して、当該年度に履修した科目の合否をもう一度判定するために実施する試験です。受験するためには、卒業所要単位数の不足分が6単位以内でなければなりません。再試験を申請できる科目は、当該年度に履修登録して不可となり、成績評価の前提となる必要最低限の学修の実態があったと授業担当教員が判断する科目に限られます。受験の可否は学部で決定します。指定された期間に所定の申請書を提出し、当該科目の再試験受験可能の通知があれば、受験料を納入することで再試験の受験が認められます。ただし、「セミナー1」、「セミナー2」、「セミナー3」、「セミナー4」、「体験プログラムA」、「体験プログラムB」、「インターンシップA」、「インターンシップB」、教職課程の科目のうち国際学部の卒業要件とならない科目は、再試験が実施されません。なお、再試験の成績評価は60点が最高点です。

受験資格（定期試験、追試験、再試験）

上記の試験における受験資格は以下の条件をすべて満たしている場合です。受験資格のない者は、たとえ試験を受験しても無効となります。

- (1) その科目を履修登録している者
- (2) 学生証を所持している者（試験当日学生証を忘れた場合は、国際学部学生センターまたは学生部で「仮学生証」の発給を受けてください。手数料がかかりますので注意してください）。
- (3) 授業料等学費を適切に納付している者
- (4) 授業回数の3分の2を超える出席をした者（授業担当教員から異なる指示がある場合は除く）

不正行為等受験時の注意（定期試験、追試験、再試験）

- (1) 試験での不正行為は絶対に許されません。不正行為があった場合は、学則および「11. 国際学部における不正行為に関する規程」に基づき厳正に処分します。
- (2) 試験開始後20分以上遅刻した者は受験できません。
- (3) 試験開始後45分を経過しなければ退室はできません。
- (4) 「試験開始」の指示の後、答案用紙に「科目名」「担当教員名」「学部学科」「学年」「学籍番号」「氏名」を、黒のペンまたはボールペンで最初に明瞭に記入すること。上記の必要事項が記入されていないものは無効になります。
- (5) 試験中に物品（筆記具、消しゴム、その他）の貸借は認めません。
- (6) 答案用紙の試験場からの持ち出しは禁止します。
- (7) 答案用紙は一部ずつ配付し、破損の場合に限り新しい用紙と交換します。

- (8) その他、受験態度不良もしくは試験監督者の指示に従わない者には受験の停止を命じることがあります。

授業内実施の試験

授業内に実施される試験の受験資格、注意事項は授業担当教員の指示に従ってください。授業内実施の試験も「11. 国際学部における不正行為に関する規程」の対象となります。

9. 国際学部追試験規程

第1条 追試験については、本学学則第19条に基づき、この規程を定める。

第2条（受験資格及びその手続き）

- (1) 定期試験を受験する資格を有するにもかかわらず、病気・不慮の事故等正当な理由により、専門科目、共通教養科目及び外国語科目につき定期試験を受けることができなかった者は、追試験の受験を申請することができる。
- (2) 申請者は、追試験受験申込書に必要な証明書を添付して、追試験受験の申請をしなければならない。
- (3) 追試験受験資格者は、本学部で審査のうえ、認定する。
- (4) 第1項に規定する正当な理由は、下記を含む。
 - ① 病気
 - ② 3親等以内の親族の危篤および死亡
 - ③ 被災
 - ④ 交通機関の遅延・停止
 - ⑤ 就職試験・大学院入試など日程変更が困難な重要な事由
- (5) 前項(4)による場合は、事前に国際学部学生センターに報告・相談しなければならない。

第3条（受験科目）

当該学期に履修登録した科目に限り追試験を実施する。

第4条（追試験日程及び実施方法）

追試験日程および実施方法は、別途通知する。

第5条

- (1) 追試験については、受験料を徴収する。
- (2) 前項の規程により納入された受験料は、追試験を受けなかった場合においても、これを返還しない。

附 則

この規程は平成28年4月1日から施行する。

10. 国際学部再試験規程

第1条 再試験については、本学学則第19条に基づき、この規程を定める。

第2条（受験資格及びその手続き）

- (1) 本学部4年生で、専門科目、全学共通科目の修得単位数の合計が120単位以上の学生に限る。
- (2) 申請者は、再試験受験申込書に必要な事項を記入して、再試験受験の申請をしなければならない。
- (3) 再試験受験資格者は、本学部で審査のうえ、認定する。

第3条（受験科目の制限）

- (1) 受験できる科目は、専門科目、共通教養科目及び外国語科目のうち、当該年度に履修登録をして「不可」となった科目のうち、成績評価の前提となる必要最低限の学修の実態があったと科目担当教員が判断する科目に限る。ただし、「セミナー1」、「セミナー2」、「セミナー3」、「セミナー4」、「Thesis Writing」およびキャップ制除外科目については、再試験を実施しない。
- (2) 再試験は、卒業資格単位に不足する単位数に該当する科目数まで受験することができる。ただし、6単位分を越えることはできない。

第4条（受験科目の評価）

再試験受験科目の評価は、60点を最高点とする。

第5条（再試験日程および実施方法）

再試験日程および実施方法は、別途通知する。

第6条

- (1) 再試験については、受験料を徴収する。
- (2) 前項の規程により納入された受験料は、再試験を受けなかった場合においても、これを返還しない。

附則

この規程は平成28年4月1日から施行する。

この規程の改訂は令和3年4月1日から施行する。

11. 国際学部における不正行為に関する規程

（目的）

第1条 この規程は、国際学部における授業、定期試験等（追試験・再試験を含む）・授業内テスト（以上を「試験等」という）、授業内課題・レポート・プレゼンテーション（以上を「課題等」という）における不正行為の取扱いを定めたものである。

（不正行為の定義）

第2条 次の事項に該当する行為を自ら行い、又は他人に行わせた場合、これを不正行為とする。

- (1) 授業の出欠を偽ること。
- (2) 試験等における以下の行為
 - ① 他人の答案を覗き見て写すこと。
 - ② カンニングペーパーを使用すること。
 - ③ あらかじめ机・その他のものに試験に関することを書き込むこと。
 - ④ 許可されていない教科書・ノート・コピー・スマートフォン、ウェアラブル端末等を利用し、または利用できる状態とすること。
 - ⑤ 本人に代わって受験すること。
- (3) 課題等における以下の行為
 - ① 剽窃・盗用等
 - ② 自らの成果物を他人に提供すること。
 - ③ 他人のために代筆すること。
 - ④ 許可されていないインターネット上の翻訳サービスを利用すること。
 - ⑤ レポート代筆サービスや無許可でチャットボットなどのAI（人工知能）を利用すること。
- (4) オンラインその他の手段により、試験や課題の問題・解答などを公開および共有し、またはそのようにして共有された情報を用いて試験やレポートに解答すること。
- (5) その他不公正な手段を用いて受験すること。または試験および成績評価の公正を害する行為をすること。

（処分の種類）

第3条 不正行為者に対する処分は、次の6種類とする。

- (1) 当該科目の成績を減点または無効とし、かつ授業担当者による厳重注意とする。
- (2) 当該科目の成績を無効とし、かつ学部長による厳重注意とする。
- (3) 当該学期の全科目の成績を無効とし、かつ譴責とする。
- (4) 当該学期の全科目の成績を無効とし、かつ3カ月以下の停学とする。
- (5) 当該学期の全科目の成績を無効とし、かつ3カ月超の停学とする。
- (6) 退学とする。

（定期試験等における不正行為への対応手順）

第4条 定期試験等における不正行為への対応は、次の手順による。

- (1) 定期試験期間には、学部長が任命する試験実施責任者と試験監督者をおく。
- (2) 試験監督者は、不正行為を発見したときは、直ちに当該学生の答案用紙等の証拠となるものを取り上げ、

学生証を預かり、そのまま試験場に待機させ、試験終了後、試験実施本部へ連れていく。

- (3) 試験監督者は、当該学生が以降の受験希望を申し出た場合は、国際学部学生センターに仮受験票の交付を依頼し、他科目の受験ができるよう配慮する。
- (4) 試験監督者は、試験終了後、試験実施責任者に当該不正行為について報告する。
- (5) 試験実施責任者は、試験監督者ととも当該学生（場合によっては関係する者を含める）から速やかに事情を聴取し、学科長に報告し、処分委員会に供する資料を作成する。
- (6) 上記（5）の報告にあたり、試験実施責任者等（試験監督者を兼務した授業担当者を含む）は、第3条（1）の処分案を提案できる。

（定期試験等以外における不正行為への対応手順）

第5条 定期試験等以外における不正行為への対応は、次の手順による。

- (1) 授業担当者は、不正の根拠となる資料（授業内テストの場合は答案用紙等）を収集・保管し、学生委員1名とともに事情を聴取する。連携協力授業の場合は、さらに成績評価者も同席する。
- (2) 上記（1）の結果を踏まえて、授業担当者は、学科長に報告し、処分委員会に供する資料を作成する。
- (3) 上記（2）の報告にあたり、授業担当者は、第3条（1）の処分案を提案できる。

（処分委員会による処分案の決定）

第6条 不正行為の報告を受けた学科長は、学生委員長（またはその代理）、教務委員長（またはその代理）を含む3名以上の教員による処分委員会を招集する。処分委員会は、当該不正行為の実態（重大性、悪質性等）を考慮し、過去の事例を参考にして処分を決定する。

（第3条（1）の処分案の決定）

第7条 上記第6条にかかわらず、学科長は、試験実施責任者等または授業担当者から提案された第3条（1）の処分案を妥当と判断する場合には、処分委員会の招集を省略し、これを処分として決定することができる。

（決定された処分の報告、実施）

第8条 決定された処分は、以下のとおり報告され、実施される。

- (1) 決定された処分が、第3条（1）の場合、教授会へ報告し、授業担当者が実施する。
- (2) 決定された処分が、第3条（2）の場合、教授会へ報告し、学科長が実施する。
- (3) 決定された処分が、第3条（3）、（4）、（5）、（6）の場合（譴責、停学又は退学を含む場合）、教授会の承認を得て、学部長が学生部長を経て学長に報告し、学則第41条に定める手続きに従う。

（処分の通知）

第9条 不正行為に対する処分が確定したときは、その旨を当該学生及び保証人に通知する。

（改廃の手続き）

第10条 この規程の改廃は、国際学部教授会において審議する。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

12. 成績評価とGPA制度

成績評価

(1) 履修科目の可否の判定

100点満点の実点で、60点以上が「合格」となり、59点以下は「不合格」となります。

(2) 成績の評価

成績の評価は、次のように表示されます。

- ① 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下）
- ② 欠席回数や課題提出の状況によっては成績評価の対象とならず、F評価（不受験）が付くことがあります。
- ③ 合格・不合格（60点以上か59点以下か）のみを判定する科目の場合は、合格を「認定」と表示します。
- ④ 再試験での成績評価は、60点が最高点です。
- ⑤ 「不可」や「不受験」も以下に述べるGPAの算出に反映されます。

GPA (Grade Point Average) 制度

(1) 制度について

近畿大学では、成績評価の指標としてGPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度を施行しています。GPAとは、100点満点の実点および「秀・優・良・可・不可」の成績評価に対応させて、成績を5段階のGP（グレード・ポイント）に置き換え、そのGPに各科目の単位数を乗じた合計をその期間に履修した科目の総単位数で割ってGPの平均値を算出したもので、最高4点から最低0点までの数値です。学期および学年ごとのGPAと通算のGPAがあります。

GPA制度の意義は、GPAやGPによって自分の学修の全体的な達成度合いを簡便に測ることができる点にあります。GPAあるいはGPに基づいて、自分の弱点を把握し、履修計画や学修状況を反省し、より実効性のある勉学に取り組むことができます。また、GPAは世界各地の大学で広く採用されている評価方法です。国内外における就職活動、大学院進学や海外留学の際に幅広く通用する国際標準の成績評価制度であり、拡大するグローバル社会において必要かつ有効な制度です。国際学部でも、履修者選抜や、セミナー（ゼミ）所属の決定などにGPAが使われます。

(2) GPA 値の計算方法

- ① GPAは以下の数値と計算式で算出されます。なお、GPAは小数第3位を四捨五入して、表記は小数第2位までとします。

実点	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	不受験
成績評価	秀	優	良	可	不可	(不受験)
GP	4	3	2	1	0	0

$$\text{GPA} = \frac{\{(\text{履修登録科目の単位数}) \times (\text{履修登録科目のGP})\} \text{の総和}}{\text{総履修登録科目の単位数}}$$

- ② 実点は当該科目の点数を表します。
- ③ 不可になった科目または不受験の科目を再履修して単位を修得した場合、通算のGPAには再履修のGPだけが算入され、学期および学年を期間とするGPAには不可および不受験のGP=0も算入されます。これは、通算GPAはその時点までの学修の成果を表し、学期・学年GPAはその期間の学修活動の状況を表す数値だからです。
- ④ 進級要件、卒業要件にはGPAを適用しません。

(3) GPA からの除外科目

キャップ制除外科目および履修を取り下げた科目は、GPAの計算式からも除外されます。履修取り下げをせずに受講を放棄するGPAが下がりますから注意してください。

履修の取り下げ

履修登録期間終了後、学部が定めた期間に、学生本人から申し出があった科目に関してのみ履修の取り下げを認めます。ただし、取り下げ期間中の履修科目の変更や追加は認められません。詳しい手続きの方法は、別途、UNIPAでお知らせします。

- ※ 例外的に履修取り下げの対象にならない科目があります。特に、第1学年前期の言語科目の各科目、TOEICを除く外国語科目、「基礎ゼミ」、「留学セミナー」、および抽選科目は履修を取り下げることができません。

成績通知および成績証明書について

- (1) 成績通知では、履修登録を行った全ての科目について実点が通知され、成績評価の要件に満たない場合（試験欠席やレポート未提出等）は、F（不受験）と表示されます。成績通知は毎年度前期末と後期末にUNIPAの成績照会画面で確認できます。
- (2) 成績証明書は大学が発行する正式な証明書で、単位修得（合格）科目とその成績評価が記載されています。就職活動や海外の大学への留学等、正式な成績証明書が必要な場合に使います。各種証明の交付を受けた

い場合はオンラインで申請し、手数料を納入の後、自動発行機等で受け取ってください。英文の証明書を希望する場合は、手数料納入の後、国際学部学生センターに来室してください。詳しくは「学生生活ガイドブック」を参照してください。

成績照会

成績照会とは、成績評価のプロセスに誤りがなかったかを授業担当教員に確認するものであり、授業参画度の再考、試験およびレポートの講評、再採点などを願い出るものではありません。試験を受験したにもかかわらず不受験扱いになっている等、成績評価プロセス自体に疑問があるときは、この制度によって担当教員に対して説明を求めることができます。ただし、担当教員に直接連絡を取るのではなく、正式な手続きのもとで照会を行ってください。手続きの詳細については、成績発表と同時にUNIPAでお知らせします。

13. オフィス・アワーとアセンブリー・アワー

(1) オフィス・アワー

学生からの授業科目等に関する質問や学生生活上の相談等に応じるための時間枠として、教員があらかじめ指定した時間帯のことで、その時間帯であれば、学生は事前に予約をした上で研究室を訪問し、質問や相談を行うことができます。なお、教員によってオフィス・アワーの曜日や時間帯は異なります。

オフィス・アワーの曜日、時間帯は各教員のシラバスを確認してください。

(2) アセンブリー・アワー

金曜の3時限は、留学に関する説明会、学内外の講師を招いての講演会、就職ガイダンス等を開催する時間帯です。国際学部の全学生がアセンブリー・アワーの催しに出席できるように、アセンブリー・アワーには、国際学部の科目を開講していません。また、アセンブリー・アワーと同時限に開講している国際学部以外の科目（例えば、教職課程科目等）を履修することはできません。

14. 授業評価アンケート

教育の質の向上のため、学期末の授業時間内に学生による授業評価アンケートを行い、授業担当教員はその結果を次年度の授業の改善に役立てます。授業評価の結果を踏まえた授業担当教員による所見（リフレクションペーパー）は学生センターで閲覧できます（前期分は11月、後期分は4月頃）。また、学期の半ばにも中間アンケートを実施し、学期後半のより効果的な授業運営に役立てます。回答者が特定されないことがないよう集計された中間および学期末の授業計画アンケートの結果は、履修登録をしている学生と授業担当教員がUNIPAで閲覧することができます。

15. 掲示とUNIPA（学生ポータルサイト UNIVERSAL PASSPORT）

近畿大学では、大学や学部からの正式な連絡やお知らせは、UNIPAを通して行われます。

UNIPAには、休講・補講、教室変更、定期試験、成績、留学等に関連する情報、大学・学部主催のイベントの情報、就職活動に関連する情報等、非常に重要な情報が通知されます。

未確認や見落としによる責任は全て学生の皆さんが負うことになります。情報の見落としがないよう、UNIPAでメールの登録を必ず行い、また添付資料は直接UNIPAにログインし、確認してください。

16. 学部で実施するTOEICスコアシート等の取り扱い

国際学部では留学プログラム参加前の1年前期と、留学プログラム終了後にTOEIC L&R/S&Wを団体受検で実施します。

TOEICのスコアシートは、就職活動などで必要になります。期限までに各自の責任において指示された方法で受領し、紛失しないように保管してください。オンライン受検では、テスト結果を各自で保存してください。いかなる理由でもスコアシートやテスト結果の再発行はしません。

III 留学

国際学部の留学

1. 留学の概要

国際学部では第1学年後期から全ての学生が米国、中国、台湾、または韓国に留学します。第1学年後期から第2学年前期という時期に留学することで、早期に高度な語学習得および異文化体験を可能にし、それ以降の学習およびキャリア形成の礎とします。

また、留学から帰国した後、「専門導入セミナー」によって留学体験を整理し、それをふまえて、今後の学修の方向性を定めます。

2. 留学の準備と留学先の決定

成果ある留学を実現するために、第1学年前期に「基礎ゼミ」、「留学セミナー」、「異文化理解」という科目を履修し、留学制度の理解、心構え、留学先で役立つ知識・スキルを身につけます。また、日本の歴史を再確認し、留学先の大学や地域の情報収集を行うことも重要です。

留学可能な協定校の中から留学先を希望することができますが、特定の留学先に希望者が偏ることがないように、第1希望だけでなく複数の留学希望先候補を提出し、それを参考に成績および語学レベル等によって決定します。

3. 留学中の心得

留学プログラムの趣旨を十分理解し、留学前に各自留学期間中に達成したい目標をしっかりと立て、その目標に向かった学習をしてください。また、渡航期間中は滞在国の法令、留学先大学の定める規則、指導教員、アドバイザー等の指示に従い、かつ日本の法令や近畿大学の学則、近畿大学国際学部の指示に反することのないよう、近畿大学生としての自覚と責任において行動してください。留学中は、勉学に励むことに加え、日々の健康管理、安全面での注意も怠らないようにしてください。

4. 禁止事項・注意事項

- (1) 留学期間中（出発前の自宅等から空港および帰国後の空港からの移動を含む）、アルバイトや車両（自動車、自動二輪車、軽飛行機、小型船舶等を含む）の運転を行うことを禁止します。
- (2) 留学期間中、自らの故意または過失により生じた損害や事故については、各自がその責任を負うことになります。
- (3) 留学期間中は近畿大学および留学先大学があらかじめ指定・認定した科目を履修し、近畿大学が指定または承認した滞在先（寮またはホームステイ先）に滞在することとします。

5. 単位の互換と成績

第1学年後期および第2学年前期の国際学部からの留学期間中に、現地の大学または現地大学と連携を持つELSランゲージセンター（グローバル専攻のみ）にて履修・単位修得した科目については、カリキュラムに定めるとおり、所定の手続きを経た上で、第1学年後期は16単位、第2学年前期は20単位を超えない範囲で、単位を認定します。

6. 国際学部留学に関する規程

（目的）

第1条 この規程は、国際学部がカリキュラムとして行う海外留学に必要な事項を定める。

（協定先大学における留学の部局）

第2条 国際学部国際学科グローバル専攻学生が留学する米国の大学の部局は、College Guideに示す大学の国際交流を司る部署および現地大学と提携を持つELSランゲージセンターとする。

- 2 国際学部国際学科東アジア専攻学生が留学する大学の部局は慶熙大学国際教育院、国民大学国際教育院、釜山外国語大学韓国語文化教育院、淡江大学成人教育部華語中心または遼寧大学国際教育学院とする。

（留学の資格）

第3条 留学できる者は、国際学部1年次に在学し、かつ留学許可に必要な基準を満たした者とする。

(出願の手続き)

第4条 留学を志望する者は、指定の期日までに、必要書類を学部に提出しなければならない。

- 2 前項の必要書類には、留学先、受け入れ部局が発行する入学内諾書（許可書）またはこれに類する書類、滞在予定住所、留学期間、同意書等、あらかじめ国際学部が指定する書類が含まれる。

(留学の許可)

第5条 留学（派遣留学または認定留学）の許可は、教授会の議を経て、学部長がこれを決定する。

(留学先と留学期間)

第6条 国際学部国際学科グローバル専攻の学生はCollege Guideに示す現地大学と提携を持つELSランゲージセンターおよび米国の大学に留学し、その期間は、留学先大学の1学年（本学における第1学年9月から第2学年5月までの約9か月）とする。

- 2 国際学部国際学科東アジア専攻の学生は別に定める中国、台湾又は韓国の大学に留学し、その期間は、留学先大学の1学年（本学における第1学年9月から第2学年8月までの約12か月）とする。

(留学中および帰国後の課題)

第7条 国際学部留学に参加する者には、次の課題が課せられる。

- (1) 留学中、定期的にレポート（学習面・生活面での報告）を学生ポータルサイト（UNIPA）等を通して提出する。
- (2) 留学報告会など、情報提供を行う。

(留学修了の手続)

第8条 留学を修了し帰国した学生は、指定の期日までに、次の各号に掲げる関係書類を提出しなければならない。

- (1) 留学先の成績証明書（またはこれに準ずる書類）
- (2) その他国際学部があらかじめ提出を指定した書類

(留学生活における確認事項)

第9条 留学は、次の事項を条件とする。

- (1) 自らの故意または過失により生じた損害や事故については、各自がその責任を負う。
- (2) 滞在国外への旅行は、これを認めない。
- (3) 一時帰国は、国際学部が承認した場合を除き、これを認めない。
- (4) 本学および留学先大学指定の海外旅行保険・留学生医療保険に加入する。
- (5) 本学および留学先大学があらかじめ指定・認定した科目を履修する。
- (6) 本学が指定または承認した滞在先（寮・レジデンスまたはホームステイ先）に滞在する。

(修得単位の取扱)

第10条 留学期間中に留学先大学の正課の科目を履修して取得した単位のうち、国際学部の教授会が適当であると認めた履修科目を、国際学部において修得したものとみなし、卒業に必要な単位として読み替えることができる。

(留学許可の取消)

第11条 留学中の学生が次の各号に該当すると認められた場合、留学先大学の部局と協議し、国際学部教授会で審議の上、留学の許可、および留学中に取得した単位を取り消すことができる。

- (1) 本大学の他の学生・保護者若しくは留学先教育機関の関係者の名誉若しくは信用を毀損し、または毀損するおそれのある行為をした場合
- (2) 留学中に他人に物理的な危害若しくは精神的な脅威を与え、または他人の安全で平穏な生活を妨害した場合
- (3) 国際学部の留学プログラム運営若しくは留学先教育機関での留学プログラム運営を妨害し、または妨害するおそれのある行為をした場合
- (4) 法令等若しくは公序良俗に違反し、またはそれらに違反するおそれのある行為をした場合
- (5) 就労（アルバイト等を含む）をした場合
- (6) 留学先で車両（自動車、自動二輪車、軽飛行機、小型船舶等を含む）を運転した場合、または国際学部の他の留学生在が留学先で運転する車両に同乗した場合

- (7) 学生査証が認められなくなった場合
- (8) 疾病その他やむを得ない理由により留学を続けることができない場合
- (9) 本学の定める規程・ルールまたは本学教職員の指示・指導に従わない場合
- (10) 国際学部の留学プログラムまたは教育課程の方針・制度と学生・保護者の要望が著しく乖離し、留学継続が困難と認められた場合
- (11) 留学プログラムの準備から現地滞在期間にわたり、本学または留学先教育機関に提出した情報に虚偽があった場合
- (12) そのほか、その行状により、国際学部が留学プログラム参加を不適切と判断した場合
- (13) 国際学部の他の留学生が本規程に違反しているのを知りながら、それに加担した場合

2 前項により留学の許可を取り消された者は、ただちに帰国し、本学部の指示に従わなければならない。

(修業年限)

第12条 国際学部がカリキュラムとして行う留学は、カリキュラム以外での留学に参加することを妨げない。なお、カリキュラム以外での留学に参加する場合の留学期間については、カリキュラムでの留学の期間と通算して2年間を超えない範囲で、学則第2条に規定する修業年限に算入することができる。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、令和5年4月1日から施行する。

全学的な留学・語学研修

1. 交換留学・派遣留学・認定留学

本学部の学生は、グローバルエデュケーションセンターを主管とする近畿大学の交換・派遣留学に参加し、再度留学することが可能です。その場合、国際学部の1年間の必修留学と合わせ、計2年間を上限とする留学期間を学則第3条に規定する修業年限に算入することができるものとします。グローバルエデュケーションセンター主管の交換・派遣留学に参加し、現地の大学で取得した単位は所定の手続きを経て、全学共通科目または専門科目として単位認定します。

2. 語学研修

本学部の学生がグローバルエデュケーションセンターを主管とする短期語学研修に参加することは可能ですが、専修言語の研修による単位認定は国際学部ではされません。専修言語以外の研修は、現地の大学で認定された修了証に基づいて「体験プログラムA」で単位認定されることがあります。詳細の条件はシラバスやUNIPAの掲示で確認してください。グローバル専攻の学生が英語以外の外国語を学習するために語学研修に参加することや、東アジア専攻の学生が英語やその他の専修言語以外の外国語を学習するために語学研修に参加することは大いに奨励します。

IV 教職課程と日本語教員養成課程

1. 教職課程

教職課程は教職教育部で担当し、本学各学部卒業後に、高等学校・中学校の教員を希望する学生に必要な教員免許資格を取得させることを目的としています。国際学部で取得できる教員免許資格は以下のとおりです。

履修希望者は「教職課程履修ガイダンス」に出席し、その指示に従って手続きをしてください。

取得免許教科の種類

専攻名	高等学校教諭一種免許状	中学校教諭一種免許状
グローバル専攻	英語	英語

注意点

- (1) 詳細は「教職課程履修ガイダンス」で配布する「教職課程履修要項」を参照してください。
- (2) 教職教育部開講科目は、進級・卒業所要単位には含まれず、キャップ制度対象外になります。
- (3) 時間割の編成によっては教職課程を履修することが難しい場合があります。

2. 日本語教員養成課程

日本の国際化・グローバル化により、日本の国内外で日本語の習得を必要とする日本語学習者が増加し、これに伴い日本語教員の需要が増えています。現在、日本語教員に関する公的な免許制度はありませんが、国際学部では文化庁が定める基準、要件に準じて日本語教育関連の科目を開設し、日本語教員の養成課程を設けています。次の表の必修科目(※)とその他の科目を合計26単位修得し、所定の手続きを行った学生には、日本語教員養成課程の修了証明書を卒業証書授与の折、交付します。手続きがなされていない場合は、修了証明書発行対象となりません。

日本語教員養成課程の修了を目指す学生は、第2学年後期開始前に「日本語教員養成課程ガイダンス」(動画視聴含む)に出席し、その指示に従って登録等の手続きをしてください。

科 目		配当学年	単位数	
異文化理解	学部共通開講科目	1~4	2	
日本語学(※)		2~4	2	
日本語教授法1(※)		3~4	2	
日本語教授法2(※)		3~4	2	
日本語教育実習(※)		3~4	2	
日本近現代史	共通教養科目	1~4	2	
日本語の技法		1~4	2	
現代の社会論		2~4	2	
人権と社会1		1~4	2	
人権と社会2		2~4	2	
住みよい社会と福祉		2~4	2	
心理と行動		2~4	2	
コミュニケーション学	グローバル専攻	2~4	2	
現代日本の文化的多様性		3~4	2	
多文化共生社会と言語		3~4	2	
言語教育理論		2~4	2	
日本語の構造		3~4	2	
東アジアの中の日本		3~4	2	
中国現代文化1		東アジア専攻	2~4	2
中国現代文化2	中国語コース		3~4	2
日中比較文化1			2~4	2
日中比較文化2			3~4	2
日中翻訳1			2~4	2
日中翻訳2	3~4		2	
日韓比較研究1	韓国語コース		2~4	2
日韓比較研究2			3~4	2
異言語と文化1			2~4	2
異言語と文化2			3~4	2
日韓映像翻訳1		2~4	2	
日韓映像翻訳2		3~4	2	
日本語音声学	自由科目	3~4	2	
日本語史論		3~4	2	

V 各種制度・案内

1. 学長賞、学部長賞等

学則の定めるところにより、在学中の学業成績が優秀であり、他の学生の模範となる学生に対し、学長賞、学部長賞が卒業式で授与されます。また、課外活動・クラブ活動等で顕著な成績や功績を挙げた学生は、特別に表彰されます。

2. 奨学金制度

以下の(1)や(2)の制度があります。いずれの奨学金についても、募集や資格条件等の詳細については、学生部発行の学生生活ガイドブックや近畿大学ホームページ等で確認してください。

- (1) 近畿大学奨学金
- (2) 日本学生支援機構奨学金

また、この他にも地方公共団体および民間有英団体等の奨学金制度もありますので、学生部奨学課の奨学金専用掲示板で確認してください。

3. 成績優秀特待生制度

第3学年において、次の条件を満たす学生は、次年度(次学年)の授業料の半額を免除します。対象者には国際学部よりその旨通知します。申告制ではありません。また、免除対象学生の採用人数は、各年次において次のとおりとします。

(1) 免除資格

成績上位であること：

第3学年進級時 72 単位以上を修得し、当該進級までの全修得科目平均点が85 点以上

第4学年進級時 108 単位以上を修得し、当該進級までの全修得科目平均点が85 点以上

当該進級までの全修得科目平均点とは単位修得した科目の平均点です(過年度分も含みます)。点数で評価しない「認定」科目は算入されません。

(2) 免除対象者数(第3学年次、第4学年次のそれぞれ)

グローバル専攻 8名以内

東アジア専攻 2名以内

なお、免除該当学生については、年度始めに保証人宛に通知します。

4. 転学部

国際学部から他学部への転学部の制度があります(第3学年)。転学部を希望する者は、年度末に実施される転学部試験に出願し合格すれば転学部が許可されます。詳しくは希望する学部の学生センターに問い合わせ、その指示にしたがってください。

5. 休学・復学

- (1) 病気、その他やむを得ない事情で休学する場合は、学則の定めるところにより、担当教員および国際学部学生センターの担当者と面談し国際学部学生センターに願い出なければなりません。
- (2) 休学者が復学しようとするときは、学則の定めるところにより、国際学部学生センターに願い出なければなりません。

6. 除籍・復籍・処分

- (1) 学費を期限までに納入しない場合は、学則の定めるところにより除籍され、学生の身分を失うことになります。学費の納入忘れに注意してください。
- (2) 学費未納の理由で除籍された者が学籍の復帰を希望するときは、所定の期間内に手続きをした場合、審査のうえ復籍が許可されます。ただし、所定の期日を過ぎても学費の納入がない場合は復籍が認められません。詳細は国際学部学生センターに問い合わせてください。
- (3) 問題行為など学生の本分にもとる行為のあった学生は、学則の定めるところにより処分されます。

7. 退学・再入学

- (1) 病気その他やむを得ない事情で退学する場合は、担当教員および国際学部学生センターの担当者と面談し退学届を保証人連署で学生証を添付して国際学部学生センターに届け出なければなりません。詳細は国際学部学生センターにお問い合わせください。
- (2) 退学した者が再入学を希望する場合は、所定の期日までに出席し、その許可を受けなければなりません。

8. 定期健康診断

毎年4月に実施される定期健康診断は必ず受診しなければなりません（第2学年は、別途通知）。健康診断により早期に疾病の発見・治療が可能となります。また、就職活動や留学手続きに必要な健康診断証明書の発行にも受診が条件です。なお、病気などやむを得ない理由で受診できなかった場合は、速やかにメディカルサポートセンターに届け出て指示を受けてください。

VI 授業科目と履修方法

1. 全学共通科目（共通教養科目・外国語科目）：卒業・履修要件と授業科目表

卒業・履修要件：共通教養科目および外国語科目

科目区分		修得すべき単位数	
全学共通科目	共通教養科目	人間性・社会性科目群	* スポーツ・表現活動科目群と合わせて、4単位以上
		地域性・国際性科目群	2単位以上
		課題設定・問題解決科目群	4単位以上 * 必修科目「基礎ゼミ」と「ICTリタラシー1」を含む
		スポーツ・表現活動科目群	* 人間性・社会性科目群と合わせて、4単位以上
	外国語科目		26単位以上

授業科目表：共通教養科目

科目区分		授業科目の名称	単位数	配当学年	
全学 共通科目	共通 教養 科目	人間性・社会性科目群	暮らしのなかの憲法	2	1
			哲学と人間・社会	2	1
			現代社会と倫理	2	1
			人権と社会 1	2	1
			人権と社会 2	2	2
			心理と行動	2	2
			現代の社会論	2	2
			芸術鑑賞入門	2	2
			住みよい社会と福祉	2	2
			現代社会と法	2	2
			現代社会と政治	2	2
			現代経済の課題	2	2
			教養特殊講義 A	2	1
		地域性・国際性科目群	日本近現代史	2	1
			世界近現代史	2	1
地域と環境の地理学	2		1		
国際文化研究 1	2		2		
国際文化研究 2	2		2		
教養特殊講義 B	2	1			
課題設定・ 問題解決科目群	基礎ゼミ（必修科目）	2	1		
	ICTリタラシー 1（必修科目）	2	1		
	日本語の技法	2	1		
	キャリアデザイン 1	2	2		
	キャリアデザイン 2	2	3		
	ICTリタラシー 2	2	2		
	生命の科学	2	2		
	環境科学	2	2		
	思考の技術	2	1		
	基礎数学 1	2	2		
	基礎数学 2	2	3		
	教養特殊講義 C	2	1		
	データリテラシー入門	2	1		
暮らしのなかの起業入門	2	1			
スポーツ・ 表現活動科目群	生涯スポーツ 1	1	1		
	生涯スポーツ 2	1	2		
	健康とスポーツの科学	2	2		

授業科目表：外国語科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当学年	
全学共通科目	共通教養科目	TOEIC	2	2
		フランス語入門A	1	2
		フランス語入門B	1	2
		スペイン語入門A	1	2
		スペイン語入門B	1	2
		ドイツ語入門A	1	2
		ドイツ語入門B	1	2
		韓国語入門A	1	2
		韓国語入門B	1	2
		中国語入門A	1	2
		中国語入門B	1	2
		タイ語入門A	1	2
		タイ語入門B	1	2
		ベトナム語入門A	1	2
		ベトナム語入門B	1	2
		フランス語基礎A	1	3
		フランス語基礎B	1	3
		スペイン語基礎A	1	3
		スペイン語基礎B	1	3
		ドイツ語基礎A	1	3
		ドイツ語基礎B	1	3
		韓国語基礎A	1	3
		韓国語基礎B	1	3
		中国語基礎A	1	3
		中国語基礎B	1	3
		タイ語基礎A	1	3
		タイ語基礎B	1	3
		ベトナム語基礎A	1	3
		ベトナム語基礎B	1	3
		フランス語中級A	1	3
		フランス語中級B	1	3
		スペイン語中級A	1	3
		スペイン語中級B	1	3
		ドイツ語中級A	1	3
		ドイツ語中級B	1	3
		韓国語中級A	1	3
		韓国語中級B	1	3
		中国語中級A	1	3
		中国語中級B	1	3
		タイ語中級A	1	3
		タイ語中級B	1	3
		ベトナム語中級A	1	3
		ベトナム語中級B	1	3
		フランス語上級A	1	4
		フランス語上級B	1	4
		スペイン語上級A	1	4
		スペイン語上級B	1	4
		ドイツ語上級A	1	4
		ドイツ語上級B	1	4
		韓国語上級A	1	4
		韓国語上級B	1	4
		中国語上級A	1	4
中国語上級B	1	4		
タイ語上級A	1	4		
タイ語上級B	1	4		
ベトナム語上級A	1	4		
ベトナム語上級B	1	4		
総合英語1A	1	2		
総合英語1B	1	2		
総合英語2A	1	3		
総合英語2B	1	3		
総合英語3A	1	3		
総合英語3B	1	3		
総合英語4A	1	4		
総合英語4B	1	4		

外国語科目履修上の注意

- (1) 全学共通科目の卒業・履修要件を満たすためには必ずしも外国語科目を履修する必要はありません。
- (2) 教職課程を履修している学生は、「TOEIC」を除く外国語科目を履修することができません。
- (3) TOEICを除く外国語科目を履修希望の場合、いずれか1言語を選択し、第2学年後期において、履修が許可された言語の「入門A・B」科目の両方を履修しなくてはなりません。その後第4学年前期まで、基礎、中級、上級と継続して自動的に履修することになります。ただし、現レベルの「A・B」科目の両方の単位を同時に修得できなかった場合は上のレベルには進めません。
- (4) 自分の専修言語を履修することはできません。
- (5) 外国語科目は抽選科目ですから、各言語のクラスの抽選（選考）に当選した者だけが履修できます。抽選については、第2学年の履修ガイダンスで案内されます。抽選は入学以降の成績（通算GPA）を基準にします。

2. 専門科目（学部共通開講科目）：卒業・履修要件と授業科目表

卒業・履修要件：学部共通開講科目

科目区分		修得すべき単位数		
専門科目	学部共通開講科目	「留学セミナー」	2単位	左記所要単位数を含み、 専門科目全体から 100単位以上
		「異文化理解」	2単位	
		「専門導入セミナー」	2単位	

授業科目表：学部共通開講科目

授業科目の名称	単位数	配当学年
(留学前)		
留学セミナー（必修科目）	2	1
異文化理解（必修科目）	2	1
(留学後)		
IELTS	1	2
日本語教授法1	2	3
日本語教授法2	2	3
日本語教育実習	2	3
日本語学	2	2
ビジネスライティング	1	3
専門導入セミナー（必修科目）	2	2
体験プログラム A	2	2
体験プログラム B	2	2
インターンシップ A	2	2
インターンシップ B	2	2
英米文学研究	2	3
英米文学史	2	3
大学コンソーシアム大阪 単位互換 (8単位まで) (※)		

※大学コンソーシアム大阪の単位互換科目の詳細は、大学院・共通教育学生センターに確認してください。

自由科目 (※)

授業科目の名称	単位数	配当学年
日本語音声学	2	3
日本語史論	2	3

※自由科目は進級要件および卒業要件には含まれません。

※日本語教員養成課程修了を目指す学生のみ履修が可能です。

履修上の注意

学部共通開講科目は、グローバル専攻と東アジア専攻の学生全員を対象とした科目であり、留学前に履修する留学準備のための科目と、留学後に履修する科目に分かれます。前者は、第1学年前期に配当される留学に必須の内容で、全て必修科目です。後者は、留学後の第2学年後期以降に配当される選択科目であり、分野が多岐にわたります。教職課程、日本語教員養成課程において重要な科目や交換派遣留学応募に重要な英語検定試験であるIELTSの受験準備の科目もあります。自身の関心や将来の進路等に留意して選択して下さい。

3. 専門科目（学部共通開講科目以外）： 卒業・履修要件、進級要件と授業科目表

(1) グローバル専攻

卒業・履修要件

科目区分		修得すべき単位数
全学共通科目	共通教養科目	26単位以上（必修科目を含む） 詳しくは「VI-1. 全学共通科目（共通教養科目・外国語科目）：卒業・履修要件と授業科目表」の記述を参照のこと。
	外国語科目	
専門科目	学部共通開講科目	6単位以上 （必修科目6単位を含む）
	セミナー科目	8単位以上 （すべて必修科目）
	言語科目	13単位以上 （必修科目13単位を含む）
	留学科目（第1学年後期、第2学年前期のみの開講科目）	2単位以上 （32単位あるいは36単位まで※）
	専門基礎科目	8単位以上
	専門発展科目	所属する領域から8単位以上を含み、20単位以上
合計（卒業所要単位数）		126単位以上

100単位以上
左記の条件を満たしていれば、それを超える単位数は専門科目のどの科目を履修して修得してもよい。左記の各科目区分の修得すべき単位数を合計しても100単位にはならないので注意すること。

※「ELS + 学部1科目受講」のコースに参加した場合、最大で36単位になる可能性があります。

進級要件

第1学年→第2学年	第2学年→第3学年	第3学年→第4学年
20単位以上	56単位以上	92単位以上

授業科目表：セミナー科目・言語科目・留学科目・専門基礎科目・専門発展科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当年次	
専門科目	セミナー科目	セミナー 1（必修科目）	2	3
		セミナー 2（必修科目）	2	3
		セミナー 3（必修科目）	2	4
		セミナー 4（必修科目）	2	4
	言語科目	文法とスピーキング（必修科目）	3	1
		ボキャブラリー（必修科目）	2	1
		リーディング・ライティング（必修科目）	3	1
		コンピュータ応用学習（必修科目）	1	1
		キャリア英語 1（必修科目）	1	2
		ディスカッション（必修科目）	1	2
		English for Specific Purposes 1A	1	2
		English for Specific Purposes 1B	1	2

授業科目表 (つづき)

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当年次	
言語科目	English for Specific Purposes 1C	1	2	
	キャリア英語 2 (必修科目)	1	3	
	ディベート (必修科目)	1	3	
	English for Specific Purposes 2A	1	3	
	English for Specific Purposes 2B	1	3	
	English for Specific Purposes 2C	1	3	
	English for Specific Purposes 3A	1	3	
	English for Specific Purposes 3B	1	3	
	English for Specific Purposes 3C	1	3	
	ビジネスプレゼンテーション	1	3	
	実践ビジネスネゴシエーション	1	3	
	専門科目	留学科目	ランゲージスキル 1	2
ストラクチャー 1			2	1
リーディング 1			2	1
ライティング 1			2	1
ランゲージスキル 2			2	1
ストラクチャー 2			2	1
リーディング 2			2	1
ライティング 2			2	1
ランゲージスキル 3			2	2
ストラクチャー 3			2	2
リーディング 3			2	2
ライティング 3			2	2
ランゲージスキル 4			2	2
ストラクチャー 4			2	2
リーディング 4			2	2
ライティング 4			2	2
人文学分野研究 A		4	1	
人文学分野研究 B		4	1	
人文学分野研究 C		4	1	
人文学分野研究 D		4	1	
社会学分野研究 A		4	1	
社会学分野研究 B		4	1	
社会学分野研究 C		4	1	
社会学分野研究 D		4	1	
国際教養研究 A		4	1	
国際教養研究 B		4	1	
国際教養研究 C		4	1	
国際教養研究 D		4	1	
自然科学分野研究 A		4	1	
自然科学分野研究 B		4	1	

授業科目表 (つづき)

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当年次	
専門科目	言語学の基礎	2	2	
	コミュニケーション学	2	2	
	ソーシャルアクション入門	2	2	
	アジア学入門	2	2	
	地域研究入門	2	2	
	環境と社会入門	2	2	
	文学研究入門	2	2	
	SDGs 入門	2	2	
	文化記号論入門	2	2	
	国際関係入門	2	2	
	グローバル共生論入門	2	2	
	言語文化入門	2	2	
	外交史入門	2	2	
	英文法研究入門	2	2	
	マスメディア概論	2	2	
	ビジネスマネジメントの基礎	2	2	
	国際法入門	2	2	
	社会心理学入門	2	2	
	言語教育理論	2	2	
	文化人類学概論	2	2	
	メディア文化論入門	2	2	
	視覚文化論入門	2	2	
	社会史入門	2	2	
	実務翻訳概論	2	2	
	グローバル・ヒストリー入門	2	2	
	観光学入門	2	2	
	専門発展科目 (コミュニケーション・実践領域)	グローバル化と日本	2	3
		第二言語習得論	2	3
		多様性と世界を理解する視点	2	3
多文化共生社会と言語		2	3	
言語と権力		2	3	
現代日本の文化的多様性		2	3	
グローバル化と文化接触		2	3	
国際経済と金融		2	3	
国際ビジネスと貿易		2	3	
企業社会とコミュニケーション		2	3	
グローバル時代の日本企業		2	3	
ESL 言語学		2	3	
早期英語教育論		2	3	
通訳概論		2	3	
旅行ビジネス英語		2	3	
観光英語		2	3	

授業科目表 (つづき)

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当年次	
専門科目	(コミュニケーション・実践領域) 専門発展科目	大阪の課題と行政の取り組み	2	3
		文化解析法特論	2	3
		模擬国連	2	3
		英語同時通訳演習	2	3
		英語逐次通訳演習	2	3
		英日翻訳演習	2	3
		観光学特論	2	3
	専門発展科目 (言語文化領域)	英語の歴史	2	3
		対人コミュニケーション論	2	3
		異文化コミュニケーション論	2	3
		応用言語学	2	3
		言語と社会	2	3
		認知言語学	2	3
		言語としての英語	2	3
		言語の構造と意味	2	3
		言語使用の原理	2	3
		対照言語学	2	3
		会話と談話の原理	2	3
		非言語コミュニケーション論	2	3
		ネット社会とコミュニケーション	2	3
		コミュニケーションの事例研究	2	3
		英語の音声と発音	2	3
		日本語の構造	2	3
	日英翻訳演習	2	3	
	言語構造特論	2	3	
	言語文化特論	2	3	
	専門発展科目 (国際関係領域)	中南米の現代社会事情	2	3
		中南米の文化と歴史	2	3
		韓国の政治と経済	2	3
		中東とアフリカの現代社会事情	2	3
		中東とアフリカの文化と歴史	2	3
		北アメリカの現代社会事情	2	3
		北アメリカの文化と歴史	2	3
オセアニアの現代社会事情		2	3	
オセアニアの文化と歴史		2	3	
東南アジア諸国連合 (ASEAN) と日本		2	3	
アジアの近現代史と日本		2	3	
国際協力・開発論		2	3	
ボランティア論		2	3	
NPO・NGO 論		2	3	
国際組織法	2	3		
国際人権法	2	3		

授業科目表（つづき）

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当年次
専門科目	専門発展科目（国際関係領域）		
	東南アジア政治と経済特論	2	3
	中国の政治と経済	2	3
	グローバル政治経済特論	2	3
	平和構築特論	2	3
	冷戦史特論	2	3
	国際法特論	2	3
	ジャーナリズム特論	2	3
	専門発展科目（人文社会領域）		
	東アジア文学	2	3
	日本文学を読む	2	3
	世界の宗教	2	3
	南アジア地域研究	2	3
	アジア社会論	2	3
	近代ヨーロッパ文化論	2	3
	現代ヨーロッパ文化論	2	3
	文化遺産学	2	3
	アジア文化芸術論	2	3
	グローバル化した世界の民族問題	2	3
	社会史	2	3
	比較文化論	2	3
	東アジアの中の日本	2	3
	アフロ・ユーラシア史	2	3
	日本文学特論	2	3
	移民研究特論	2	3
	メディア・コミュニケーション研究特論	2	3
	社会史特論	2	3
	人類史特論	2	3
	4領域共通科目		
	Thesis Writing	2	4

履修の流れ

グローバル専攻の学生は、下記に示す履修の流れをよく理解して、各学年、各学期の学修の要点を把握し、漫然と卒業要件を満たすのではなく、自らの希望する進路や学問的な興味関心を踏まえつつ、計画的に履修してください。下記に注意してください。

- ここに示したのは標準的な履修の流れで、変更されることがあります。履修に関する重要なお知らせは「履修ガイダンス」やUNIPAによって周知されます。
- 必修科目は履修できる最も早い学年で履修してください。必修科目は合格しなければ卒業できませんから、不合格になれば次の年度以降に再度履修しなければなりません。
- 履修ガイダンスとUNIPAで伝えられる情報は周知されたものと見なされます。見落としがあれば学修上の不利益になることがあります。履修ガイダンスには必ず出席し、UNIPAの情報は日常的に確認してください。

- 履修ガイダンスは第1学年は学年冒頭に、第2学年は帰国後に実施します。第3学年と第4学年は所属するセミナー（ゼミ）で履修指導を受けてください。

【第1学年前期の学修】

この学期は、4年間の学生生活全体の計画を立て、留学の準備と留学に備えた学修、そして英語力の向上に力を入れてください。

- 教職課程を受講する人は、教職教育部の履修要項をよく読み、教職課程で必修とされている科目のうち今年度に履修できるものを必ずこの学期に履修するようにしてください（次項2.を参照）。また、第2学年から教職課程を開始して卒業までに修了するのは学修負担が非常に大きいので、教員を目指す人は第1学年から教職課程を履修することを強く推奨します。
- 共通教養科目では下記に注意して履修してください。
 - 必修科目の「基礎ゼミ」を指定されたクラスで履修してください。
 - 後期から留学することを踏まえ、選択科目を積極的に履修してください。
 - 教職課程を履修する人は、教職課程の必修科目である「暮らしのなかの憲法」と「生涯スポーツ1」を今学期に履修することを推奨します（国際学部の科目としては選択科目です）。「ICTリタラシー1」も教職課程の必修科目ですが、国際学部のカリキュラムでも必修科目ですから今学期に履修してください。
- 学部共通開講科目は、必修科目の「留学セミナー」と「異文化理解」を指定されたクラスで履修してください。
- 「基礎ゼミ」と「留学セミナー」の授業内では、留学のための重要な書類の受け渡しが行われます。欠席しないようにしてください。
- 言語科目では、ELSの提供する4科目を履修します。指定されたクラスで受講し、留学に備えて英語力をしっかり身につけてください。
- 日本語教員養成課程の修了に必要な「日本語の技法」と「日本近現代史」および「人権と社会1」は第1学年から履修できますから、日本語教員養成課程の修了を目指す人は履修することを推奨します。
- 前期に学部主催のTOEICテストを実施しますので、必ず受検してください。

【第1学年後期の学修】

この学期と第2学年前期の前半は留学プログラムに参加します。異文化に積極的に関わり、視野を広げ、語学力を鍛えてください。

- 留学レポートの提出は留学科目の成績に影響しますから、忘れないように提出してください。
- 留学セミナーで周知された注意事項を守ること。「留学セミナーハンドブック」を留学先に持参してください。
- 留学科目のうち、前半（科目番号が1・2の科目）の成績はこの学期の成績として学期末に通知されます。

【第2学年前期の学修】

留学プログラムの後半です。また、留学から帰国してから前期終了までの間は、近畿大学で学修します。

- 留学科目のうち、後半（クラス番号が3・4の科目および「〇〇研究」の科目）の成績はこの学期の成績として学期末に通知されます。
- 必修科目「専門導入セミナー」を履修し、帰国後に始まる専門教育に備えます。指定されたクラスで履修してください。また、この期間に開講される外国語科目の「TOEIC」は必修ではありませんが、履修することを強く推奨します。
- 留学から帰国してから、前期終了までの間に学部主催で実施されるTOEICテストを必ず受検してください。

【第2学年後期の学修】

この学期は、必要な科目を履修しつつ、第3学年からの専門的な学修の準備をしていきます。

- 専門基礎科目は、国際学部の教員の多彩な専門分野を知る機会になります。卒業までに8単位以上修得する必要がありますが、できるだけこの学期に修得し、第3学年以降にどのゼミ（領域）を希望するかを検

討してください。また、翌年度以降に履修を希望する特論の先修（プリレクイジット）科目を履修してください。

2. この学期に、第3学年以降に所属する「ゼミ（セミナー）」の選考があります。指示に従って申請してください。申請がない場合は3年生になっても「セミナー1」と「セミナー2」を履修できず、改めて第3学年後期にゼミ選考に参加しなければなりません。所属するゼミによって自動的に自分の領域が決まります。
3. 共通教養科目と外国語科目（第二外国語）の履修が始まります。
 - 「キャリアデザイン1」は、就職活動の準備のための科目です。卒業後に就職を目指す人は履修することを強く推奨します。
 - 後期の「基礎数学1」は、企業の採用選考で課される数学的な能力を問うテストの対策講座です。数学が苦手な人は履修することを強く推奨します。
 - 「ICTリタラシー2」は、社会で必要とされるソフトウェアのやや高度な運用技術を修得するための科目です。各自の必要性に応じて履修を決めてください。
 - 教職課程を履修している人は、「生涯スポーツ2」が教職課程の必修科目ですので、今学期に履修することを強く推奨します。
 - 外国語科目は選択科目ですから履修しなくても卒業要件を満たすことができます。英語以外の外国語を習得することは将来の進路選択にも役立ちますので、各自の希望進路や学修目標に照らして履修するかどうかを決めてください。外国語科目を履修する場合、1言語を選択し、この学期から入門、基礎、中級、上級の順に履修しなければなりません。外国語科目は抽選科目ですから、希望通り履修できないこともあります。履修の方法は、VI-Iの外国語科目の授業科目表の下にある「外国語科目履修上の注意」を参照してください。
4. 学部共通開講科目については下記を参考にして履修してください。
 - 日本語教員養成課程の修了を目指す人は「日本語学」を履修してください。
 - 3年次以降に交換留学・派遣留学を目指す人はIELTSのスコアが求められる場合が多いため、今学期に「IETLS」を受講して受験に備えることを推奨します。
 - 「インターンシップ」と「体験プログラム」については、説明会がありますから参加してください。参加するインターンシップや体験プログラムによって時期が異なります。
5. 言語科目では、必修科目の「キャリア英語1」と「ディスカッション」を指定されたクラスで履修してください。また、選択科目の「English for Specific Purposes 1A～C」は、特定の分野で使われる英語を学ぶ科目です。希望に応じて履修してください。ESP科目は抽選科目です。
6. 教職課程を履修している人にとっては、この学期での履修が非常に重要になります。
 - 教職教育部の履修要項に従って国際学部および教職教育部で開講される必要な科目をできるだけ多く履修してください。「コミュニケーション学」（国際学部の専門基礎科目）を修得することは重要です。
 - また、第2学年から新たに教職課程を開始することも不可能ではありませんが、卒業までに修了するのは科目履修の負担が非常に大きくなることに注意してください。教職課程を開始したい人は教職ガイダンスを必ず受講してください。

【第3・4学年の学修】

専門分野の知識を深め、アカデミックな知識を深め、体験を積みます。卒業に必要な単位を揃えられるように、履修登録には細心の注意を払ってください。進路選択についても考えて行動してください。教職課程を履修している人は引き続き必要な科目を履修してください。

1. 共通教養科目・外国語科目は、引き続き必要な科目を履修してください。下記に注意してください。
 - 外国語科目は合格すれば上のレベルの科目に自動的に履修登録されます。途中で辞退することはできませんから注意してください。
 - 前期の「キャリアデザイン2」は就職活動をめざした実践的な内容になります。履修を強く推奨します。
 - 前期の「基礎数学2」は、企業の採用選考で課される数学的な能力を問うテストの対策講座です。数学

が苦手な人は履修することを強く推奨します。

2. 学部共通開講科目では下記を参考にして履修してください。
 - 日本語教員養成課程の修了を目指す人は、「日本語教授法1」、「日本語教授法2」、「日本語教育実習」は必修科目ですから履修してください。日本語についてさらに知識を深めるために「日本語音声学」と「日本語史論」も履修を検討してください。
 - 「英米文学研究」と「英米文学史」は、英米文学に関心のある人は履修してください。
3. 言語科目では、前期に必修科目の「キャリア英語2」と「ディベート」があります。指定されたクラスで履修してください。後期には「ビジネスプレゼンテーション」と「実践ビジネスネゴシエーション」があります。また、選択科目の「English for Specific Purposes 2A-C」が前期に、「English for Specific Purposes 3A-C」が後期に開講されます。希望に応じて履修してください。
4. 専門発展科目は4つの「領域」に分かれています。卒業までに、自分が属する領域から最低8単位を修得し、他の領域の科目も含めて合計20単位以上を修得する必要があります。領域共通の「Thesis Writing」は、所属するゼミの教員からアカデミックな「論文」を作成するための指導を受ける科目です。
5. 第3学年と第4学年では、すべての学生が「セミナー（ゼミ）」に所属し、セミナー科目の「セミナー1」、「セミナー2」、「セミナー3」、「セミナー4」で同じ教員の指導を受け、成果物を提出します。
6. 教職課程を履修する人は、国際学部の卒業要件を考慮しながら、教育実習や介護等体験のような実習に向けて履修すべき重要な科目を修得しなければなりません。国際学部の履修要項と教職課程の履修要項の内容を十分理解して履修し、授業に取り組んでください。

<目標とする検定>

留学修了時：TOEIC 730 点以上、TOEFL iBT 75 点以上、IELTS 5.0 以上のいずれか

卒業時：TOEIC 800 点以上、TOEFL iBT 90 点以上、IELTS 6.0 以上のいずれか

(2) 東アジア専攻 中国語コース

卒業・履修要件

科目区分		修得すべき単位数	
全学共通科目	共通教養科目	26単位以上（必修科目を含む） ※詳しくは「VI-1. 全学共通科目（共通教養科目・外国語科目）：卒業・履修要件と授業科目表」の記述を参照のこと。	
	外国語科目		
専門科目	学部共通開講科目	6単位以上 (必修科目6単位を含む)	100単位以上 ※グローバル専攻の専門基礎科目・専門発展科目を16単位を上限として含むことができる。
	セミナー科目	8単位以上 (すべて必修科目)	
	言語科目	18単位以上 (必修科目を含む)	
	留学科目（第1学年後期、第2学年前期のみの開講科目）	2単位以上	
	専門発展科目 ※グローバル専攻の専門基礎科目・専門発展科目は含まない。	18単位以上 (必修単位を含む)	
合計（卒業所要単位数）		126単位以上	

進級要件

第1学年→第2学年	第2学年→第3学年	第3学年→第4学年
20単位以上	56単位以上	92単位以上

授業科目表：セミナー科目・言語科目・留学科目・専門発展科目

科目区分		授業科目の名称	単位数	配当年次
専門科目	セミナー科目	セミナー 1 (必修科目)	2	3
		セミナー 2 (必修科目)	2	3
		セミナー 3 (必修科目)	2	4
		セミナー 4 (必修科目)	2	4
	言語科目	中国語文法 (入門) 1 (必修科目)	1	1
		中国語文法 (入門) 2 (必修科目)	1	1
		中国語文法 (入門) 3 (必修科目)	1	1
		中国語会話 (入門) 1 (必修科目)	1	1
		中国語会話 (入門) 2 (必修科目)	1	1
		中国語表現 1 (必修科目)	1	1
		中国語表現 2 (必修科目)	1	1
		英会話 (必修科目)	1	1
		中国語文法 (上級) (必修科目)	1	2
		中国語会話 (上級) (必修科目)	1	2
		中国語検定試験演習 1 (必修科目)	1	2
		中国語表現技法 1	1	2
		ビジネス中国語 1	1	2
		中国語プレゼンテーション 1 (必修科目)	1	3
		中国語演習 1 (必修科目)	1	3
		中国語表現技法 2	1	3
ビジネス中国語 2	1	3		
中国語プレゼンテーション 2 (必修科目)	1	3		
中国語演習 2 (必修科目)	1	3		
中国語検定試験演習 2 (必修科目)	1	3		

授業科目表（つづき）

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当年次	
専 門 科 目	留 学 科 目	中国語文法（初級）1	2	1
		中国語文法（初級）2	2	1
		中国語文法（初級）3	2	1
		中国語会話（初級）1	2	1
		中国語会話（初級）2	2	1
		中国語会話（初級）3	2	1
		中国語作文（初級）1	1	1
		中国語作文（初級）2	1	1
		中国語作文（初級）3	1	1
		English Grammar A	1	1
		English Conversation A	1	1
		中国語文法（中級）1	2	2
		中国語文法（中級）2	2	2
		中国語文法（中級）3	2	2
		中国語会話（中級）1	2	2
		中国語会話（中級）2	2	2
		中国語会話（中級）3	2	2
		中国語作文（中級）1	1	2
		中国語作文（中級）2	1	2
		中国語作文（中級）3	1	2
	English Grammar B	1	2	
	English Conversation B	1	2	
	専 門 発 展 科 目	中国学研究法（必修科目）	2	2
		中国近現代史 1	2	2
		中国現代文化 1	2	2
		日中比較文化 1	2	2
		中国語学 1	2	2
		中国近現代文学 1	2	2
日中翻訳1		2	2	
中国近現代史 2		2	3	
中国現代文化 2		2	3	
日中比較文化 2		2	3	
中国語学 2		2	3	
中国近現代文学 2		2	3	
日中翻訳 2		2	3	
Thesis Writing		2	4	
グローバル専攻の専門基礎科目・専門発展科目	※	※		

※グローバル専攻の授業科目表を参照のこと

履修の流れ

東アジア専攻中国語コースの学生は、下記に示す履修の流れをよく理解して、各学年、各学期の学修の要点を把握し、漫然と卒業要件を満たすのではなく、自らの希望する進路や学問的な興味関心を踏まえつつ、計画的に履修してください。下記に注意してください。

- ここに示したのは標準的な履修の流れで、変更されることがあります。履修に関する重要なお知らせは「履修ガイダンス」やUNIPAによって周知されます。
- 必修科目は履修できる最も早い学年で履修してください。必修科目は合格しなければ卒業できませんから、不合格になれば次の年度以降で再度履修しなければなりません。
- 履修ガイダンスとUNIPAで伝えられる情報は周知されたものと見なされます。見落としがあれば学修上の不利益になることがあります。履修ガイダンスには必ず出席し、UNIPAの情報は日常的に確認してください。
- 履修ガイダンスは第1学年と第3学年は学年冒頭に、第2学年は帰国後に実施します。第4学年はゼミで履修指導を受けてください。

【第1学年前期の学修】

この学期は、4年間の学生生活全体の計画を立て、留学の準備と留学に備えた学修、そして中国語力の向上に力を入れてください。

- 共通教養科目では下記に注意して履修してください。
 - 必修科目の「基礎ゼミ」、「ICTリタラシー1」を指定されたクラスで履修してください。
 - 後期から留学することを踏まえ、選択科目を積極的に履修してください。
- 学部共通開講科目は、必修科目の「留学セミナー」と「異文化理解」を指定されたクラスで履修してください。
- 「基礎ゼミ」と「留学セミナー」の授業内では留学のための重要な書類の受け渡しが行われます。欠席しないようにしてください。
- 言語科目では、留学に備えて中国語の学習を基礎から始め、現地での留学生生活をスムーズに始められるよう中国語能力を徹底的に鍛えます。この学期は、中国語の学習に全力を挙げてください。また「英会話」で英語力の向上にも努めてください。
- 日本語教員養成課程の修了に必要な「日本語の技法」と「日本近現代史」および「人権と社会1」は第1学年から履修できますから、日本語教員養成課程の修了を目指す人は履修することを推奨します。
- 前期に学部主催のTOEICテストを実施しますので、必ず受検してください。

【第1学年後期の学修】

この学期と第2学年前期は留学プログラムに参加します。異文化に積極的に関わり、視野を広げ、語学力を鍛えてください。

- 留学レポートの提出は留学科目の成績に影響しますから、忘れないように提出してください。
- 留学セミナーで周知された注意事項を守ること。「留学セミナーハンドブック」を留学先に持参してください。
- 留学科目のうち、前半の成績はこの学期の成績として通知されます。

【第2学年前期の学修】

留学プログラムの後半です。引き続きさらなる異文化理解と語学力の向上に全力を尽くしてください。

- 留学レポートの提出は留学科目の成績に影響しますから、忘れないように提出してください。
- 留学の後半の成績はこの学期の成績として通知されます。

【第2学年後期の学修】

この学期は、必要な科目を履修しつつ、3年次からの専門的な学修の準備をしていきます。

- 共通教養科目と外国語科目（第二外国語）の履修が始まります。
 - 「キャリアデザイン1」は、就職活動の準備のための科目です。卒業後に就職を目指す人は履修することを強く推奨します。
 - 後期の「基礎数学1」は、企業の採用選考で課される数学的な能力を問うテストの対策講座です。数学が苦手な人は履修することを強く推奨します。

- 「ICTリタラシー2」は、社会で必要とされるソフトウェアのやや高度な運用技術を修得するための科目です。各自の必要性に応じて履修を決めてください。
 - 外国語科目は選択科目ですから履修しなくても卒業要件を満たすことができます。中国語以外の外国語を習得することは将来の進路選択にも役立ちますので、各自の希望進路や学修目標に照らして履修するかどうかを決めてください。外国語科目の中には東アジア専攻の学生用に英語も設けられています。特に英語は活用できる幅が広いので、履修することを強く推奨します。外国語科目を履修する場合、1言語を選択し、この学期から入門、基礎、中級、上級（「総合英語1～4」）の順に履修しなければなりません。外国語科目は抽選科目ですから、希望通り履修できないこともあります。履修の方法は、VI-Iの外国語科目の授業科目表の下にある「外国語科目履修上の注意」を参照してください。
2. 学部共通開講科目については下記を参考に履修してください。
 - 必修科目の「専門導入セミナー」を履修し、第3学年以降の「セミナー」に備えます。この科目の中で各自の研究テーマを考え、学期末に研究計画書を提出し、それに基づいて第3学年以降に所属する「セミナー（ゼミ）」が決定されます。この科目を履修しない場合は所属が決まらず、3年生になっても「セミナー1」と「セミナー2」を履修できません。
 - 日本語教員養成課程の修了を目指す人は「日本語学」を履修してください。
 - 「インターンシップ」と「体験プログラム」については、説明会がありますから参加してください。参加するインターンシップや体験プログラムによって時期が異なります。
 3. 言語科目では、必修科目の「中国語文法（上級）」、「中国語会話（上級）」、「中国語検定試験演習1」を指定されたクラスで履修してください。卒業までに18単位以上修得する必要がありますから、選択科目の「中国語表現技法1」「ビジネス中国語1」なども計画的に履修してください。
 4. 専門発展科目は、必修科目の「中国学研究法」に加えて、歴史・言語・文化などの様々な科目を選択できます。卒業までに中国語コース専門発展科目の中から18単位以上修得する必要がありますから、各自の興味関心に応じて計画的に履修してください。また卒業要件の18単位を超える分については、グローバル専攻の専門基礎科目・専門発展科目を16単位まで履修することもできます。この学期には2年次に配当される専門基礎科目を履修できます。
 5. 後期に学部主催のTOEICテストを実施しますので、必ず受検してください。また、専修言語の検定試験も積極的に受検してください。

【第3・4学年の学修】

専門分野の知識を深め、アカデミックな知識を深め、体験を積みます。卒業に必要な単位を揃えられるように、履修登録には細心の注意を払ってください。進路選択についても考えて行動してください。

1. 共通教養科目・外国語科目は、引き続き必要な科目を履修してください。下記に注意してください。
 - 外国語科目は合格すれば上のレベルの科目に自動的に履修登録されます。途中で辞退することはできませんから注意してください。
 - 前期の「キャリアデザイン2」は就職活動をめざした実践的な内容になります。履修を強く推奨します。
 - 前期の「基礎数学2」は、企業の採用選考で課される数学的な能力を問うテストの対策講座です。数学が苦手な人は履修することを強く推奨します。
2. 学部共通開講科目では下記を参考に履修してください。
 - 日本語教員養成課程の修了を目指す人は「日本語教授法1」、「日本語教授法2」、「日本語教育実習」は必修科目ですから履修してください。日本語についてさらに知識を深めるために「日本語音声学」と「日本語史論」の履修も検討してください。
3. 言語科目では、必修科目として前期に「中国語演習1」、「中国語プレゼンテーション1」があり、後期に「中国語演習2」、「中国語プレゼンテーション2」、「中国語検定試験演習2」があります。指定されたクラスで履修してください。その他の選択科目も計画的に履修してください。
4. 専門発展科目は、引き続き各自の興味関心に応じて計画的に履修してください。コースの専門発展科目か

ら18単位以上修得するよう注意してください。3年次以降は、グローバル専攻の専門基礎科目に加えて、専門発展科目も履修することができます。「Thesis Writing」は、所属するゼミの教員からアカデミックな「論文」を作成するための指導を受ける科目です。

5. 第3学年と第4学年では、第2学年後期のゼミ分けの結果に従って、すべての学生が指定された「ゼミ」に所属し、セミナー科目の「セミナー1」、「セミナー2」、「セミナー3」、「セミナー4」で担当教員の指導を受け、成果物を提出します。

<目標とする検定>

留学修了時：中国語検定3級以上、HSK 4級以上、TOCFL進階級以上のいずれかおよびTOEIC 450点以上

卒業時：中国語検定2級以上、HSK 6級、TOCFL流利級以上のいずれかおよびTOEIC600点以上

(3) 東アジア専攻 韓国語コース

卒業・履修要件

科目区分		修得すべき単位数	
全学共通科目	共通教養科目	26単位以上（必修科目を含む） ※詳しくは「VI-1. 全学共通科目（共通教養科目・外国語科目）：卒業・履修要件と授業科目表」の記述を参照のこと。	
	外国語科目		
専門科目	学部共通開講科目	6単位以上 (必修科目6単位を含む)	100単位以上 ※グローバル専攻の専門基礎科目・専門発展科目を16単位を上限として含むことができる。
	セミナー科目	8単位以上 (すべて必修科目)	
	言語科目	18単位以上 (必修科目を含む)	
	留学科目（第1学年後期、第2学年前期のみの開講科目）	2単位以上	
	専門発展科目 ※グローバル専攻の専門基礎科目・専門発展科目は含まない。	18単位以上 (必修科目を含む)	
合計（卒業所要単位数）		126単位以上	

進級要件

第1学年→第2学年	第2学年→第3学年	第3学年→第4学年
20単位	56単位	92単位

授業科目表：セミナー科目・言語科目・留学科目・専門発展科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当年次
セミナー科目	セミナー 1（必修科目）	2	3
	セミナー 2（必修科目）	2	3
	セミナー 3（必修科目）	2	4
	セミナー 4（必修科目）	2	4
言語科目	韓国語文法（入門）1（必修科目）	1	1
	韓国語文法（入門）2（必修科目）	1	1
	韓国語文法（入門）3（必修科目）	1	1
	韓国語会話（入門）1（必修科目）	1	1
	韓国語会話（入門）2（必修科目）	1	1
	韓国語表現 1（必修科目）	1	1
	韓国語表現 2（必修科目）	1	1
	英会話（必修科目）	1	1
	韓国語文法（上級）（必修科目）	1	2
	韓国語会話（上級）（必修科目）	1	2
	韓国語検定試験演習 1（必修科目）	1	2
	韓国語表現技法 1	1	2
	ビジネス韓国語 1	1	2
	韓国語プレゼンテーション 1（必修科目）	1	3
	韓国語演習 1（必修科目）	1	3
	韓国語表現技法 2	1	3
ビジネス韓国語 2	1	3	

授業科目表 (つづき)

科目区分		授業科目の名称	単位数	配当年次	
専門科目	言語科目	韓国語プレゼンテーション 2 (必修科目)	1	3	
		韓国語演習 2 (必修科目)	1	3	
		韓国語検定試験演習 2 (必修科目)	1	3	
	留学科目	韓国語文法 (初級) 1	2	1	
		韓国語文法 (初級) 2	2	1	
		韓国語文法 (初級) 3	2	1	
		韓国語会話 (初級) 1	2	1	
		韓国語会話 (初級) 2	2	1	
		韓国語会話 (初級) 3	2	1	
		韓国語作文 (初級) 1	1	1	
		韓国語作文 (初級) 2	1	1	
		韓国語作文 (初級) 3	1	1	
		English Grammar A	1	1	
		English Conversation A	1	1	
		韓国語文法 (中級) 1	2	2	
		韓国語文法 (中級) 2	2	2	
		韓国語文法 (中級) 3	2	2	
		韓国語会話 (中級) 1	2	2	
		韓国語会話 (中級) 2	2	2	
		韓国語会話 (中級) 3	2	2	
		韓国語作文 (中級) 1	1	2	
		韓国語作文 (中級) 2	1	2	
		韓国語作文 (中級) 3	1	2	
		English Grammar B	1	2	
		English Conversation B	1	2	
		専門発展科目	現代韓国の理解 (必修科目)	2	2
			韓国近現代史 1	2	2
			韓国学概論 1	2	2
			日韓文献翻訳 1	2	2
			日韓比較研究 1	2	2
異言語と文化 1	2		2		
日韓映像翻訳 1	2		2		
韓国近現代史 2	2		3		
韓国学概論 2	2		3		
日韓文献翻訳 2	2		3		
日韓比較研究 2	2		3		
異言語と文化 2	2		3		
日韓映像翻訳 2	2		3		
Thesis Writing	2		4		
グローバル専攻の専門基礎科目、専門発展科目	※		※		

※グローバル専攻の授業科目表を参照のこと。

履修の流れ

東アジア専攻韓国語コースの学生は、下記に示す履修の流れをよく理解して、各学年、各学期の学修の要点を把握し、漫然と卒業要件を満たすのではなく、自らの希望する進路や学問的な興味関心を踏まえつつ、計画的に履修してください。下記に注意してください。

1. ここに示したのは標準的な履修の流れで、変更されることがあります。履修に関する重要なお知らせは「履修ガイダンス」やUNIPAによって周知されます。
2. 必修科目は履修できる最も早い学年で履修してください。必修科目は合格しなければ卒業できませんから、不合格になれば次の年度以降に再度履修しなければなりません。
3. 履修ガイダンスとUNIPAで伝えられる情報は周知されたものと見なされます。見落としがあれば学修上の不利益になることがあります。履修ガイダンスには必ず出席し、UNIPAの情報は日常的に確認してください。
4. 履修ガイダンスは第1学年と第3学年は学年冒頭に、第2学年は帰国後に実施します。第4学年はゼミで履修指導を受けてください。

【第1学年前期の学修】

この学期は、4年間の学生生活全体の計画を立て、留学の準備と留学に備えた学修、そして韓国語力の向上に力を入れてください。

1. 共通教養科目では下記に注意して履修してください。
 - 必修科目の「基礎ゼミ」、「ICTリタラシー1」を指定されたクラスで履修してください。
 - 後期から留学することを踏まえ、選択科目を積極的に履修してください。
2. 学部共通開講科目は、必修科目の「留学セミナー」と「異文化理解」を指定されたクラスで履修してください。
3. 「基礎ゼミ」と「留学セミナー」の授業内では留学のための重要な書類の受け渡しが行われます。欠席しないようにしてください。
4. 言語科目では、留学に備えて韓国語の学習を基礎から始め、現地での留学生生活をスムーズに始められるよう韓国語能力を徹底的に鍛えます。この学期は、韓国語の学習に全力を挙げてください。また「英会話」で英語力の向上にも努めてください。
5. 日本語教員養成課程の修了に必要な「日本語の技法」と「日本近現代史」および「人権と社会1」は第1学年から履修できますから、日本語教員養成課程の修了を目指す人は履修することを推奨します。
6. 前期に学部主催のTOEICテストを実施しますので、必ず受検してください。

【第1学年後期の学修】

この学期と第2学年前期は留学プログラムに参加します。異文化に積極的に関わり、視野を広げ、語学力を鍛えてください。

1. 留学レポートの提出は留学科目の成績に影響しますから、忘れないように提出してください。
2. 留学セミナーで周知された注意事項を守ること。「留学セミナーハンドブック」を留学先に持参してください。
3. 留学科目のうち、前半の成績はこの学期の成績として通知されます。

【第2学年前期の学修】

留学プログラムの後半です。引き続きさらなる異文化理解と語学力の向上に全力を尽くしてください。

1. 留学レポートの提出は留学科目の成績に影響しますから、忘れないように提出してください。
2. 留学の後半の成績はこの学期の成績として通知されます。

【第2学年後期の学修】

この学期は、必要な科目を履修しつつ、3年次からの専門的な学修の準備をしていきます。

1. 共通教養科目と外国語科目（第二外国語）の履修が始まります。
 - 「キャリアデザイン1」は、就職活動の準備のための科目です。卒業後に就職を目指す人は履修することを強く推奨します。
 - 後期の「基礎数学1」は、企業の採用選考で課される数学的な能力を問うテストの対策講座です。数学が苦手な人は履修することを強く推奨します。
 - 「ICTリタラシー2」は、社会で必要とされるソフトウェアのやや高度な運用技術を修得するための科目です。各自の必要性に応じて履修を決めてください。
 - 外国語科目は選択科目ですから履修しなくても卒業要件を満たすことができます。韓国語以外の外国語を習得することは将来の進路選択にも役立ちますので、各自の希望進路や学修目標に照らして履修するかどうかを決めてください。外国語科目の中には東アジア専攻の学生用に英語も設けられています。特に英語は活用できる幅が広いので、履修することを強く推奨します。外国語科目を履修する場合、1言語を選択し、この学期から入門、基礎、中級、上級（「総合英語1～4」）の順に履修しなければなりません。外国語科目は抽選科目ですから、希望通り履修できないこともあります。履修の方法は、VI-Iの外国語科目の授業科目表の下にある「外国語科目履修上の注意」を参照してください。
2. 学部共通開講科目については下記を参考にして履修してください。
 - 必修科目の「専門導入セミナー」を履修し、第3学年以降の「セミナー」に備えます。この科目の中で各人の研究テーマを考え、学期末に研究計画書を提出し、それに基づいて第3学年以降に所属する「セミナー（ゼミ）」が決定されます。この科目を履修しない場合は所属が決まらず、3年生になっても「セミナー1」と「セミナー2」を履修できません。
 - 日本語教員養成課程の修了を目指す人は「日本語学」を履修してください。
 - 「インターンシップ」と「体験プログラム」については、説明会がありますから参加してください。参加するインターンシップや体験プログラムによって時期が異なります。
3. 言語科目では、必修科目の「韓国語文法（上級）」、「韓国語会話（上級）」、「韓国語検定試験演習1」を指定されたクラスで履修してください。卒業までに18単位以上修得する必要がありますから、選択科目の「韓国語表現技法1」「ビジネス韓国語1」なども計画的に履修してください。
4. 専門発展科目は、必修科目の「現代韓国の理解」に加えて、歴史・言語・文化などの様々な科目を選択できます。卒業までに韓国語コース専門発展科目の中から18単位以上修得する必要がありますから、各自の興味関心に応じて計画的に履修してください。また卒業要件の18単位を超える分については、グローバル専攻の専門基礎科目・専門発展科目を16単位まで履修することもできます。この学期には2年次に配当される専門基礎科目を履修できます。
5. 後期に学部主催のTOEICテストを実施しますので、必ず受検してください。また、専修言語の検定試験も積極的に受検してください。

【第3・4学年の学修】

専門分野の知識を深め、アカデミックな知識を深め、体験を積みます。卒業に必要な単位を揃えられるように、履修登録には細心の注意を払ってください。進路選択についても考えて行動してください。

1. 共通教養科目・外国語科目は、引き続き必要な科目を履修してください。下記に注意してください。
 - 外国語科目は合格すれば上のレベルの科目に自動的に履修登録されます。途中で辞退することはできませんから注意してください。
 - 前期の「キャリアデザイン2」は就職活動をめざした実践的な内容になります。履修を強く推奨します。
 - 前期の「基礎数学2」は、企業の採用選考で課される数学的な能力を問うテストの対策講座です。数学が苦手な人は履修することを強く推奨します。
2. 学部共通開講科目では下記を参考にして履修してください。

- 日本語教員養成課程の修了を目指す人は「日本語教授法1」、「日本語教授法2」、「日本語教育実習」は必修科目ですから履修してください。日本語についてさらに知識を深めるために「日本語音声学」と「日本語史論」も履修を検討してください。
- 3. 言語科目では、必修科目として前期に「韓国語演習1」、「韓国語プレゼンテーション1」があり、後期に「韓国語演習2」、「韓国語プレゼンテーション2」、「韓国語検定試験演習2」があります。指定されたクラスで履修してください。その他の選択科目も計画的に履修してください。
- 4. 専門発展科目は、引き続き各自の興味関心に応じて計画的に履修してください。コースの専門発展科目から18単位以上修得するよう注意してください。3年次以降は、グローバル専攻の専門基礎科目に加えて、専門発展科目も履修することができます。「Thesis Writing」は、所属するゼミの教員からアカデミックな「論文」を作成するための指導を受ける科目です。
- 5. 第3学年と第4学年では、第2学年後期のゼミ分けの結果に従って、すべての学生が指定された「セミナー(ゼミ)」に所属し、セミナー科目の「セミナー1」、「セミナー2」、「セミナー3」、「セミナー4」で担当教員の指導を受け、成果物を提出します。

<目標とする検定>

留学修了時：「ハングル」能力検定準2級以上、TOPIK（韓国語能力試験）4級以上のいずれかおよびTOEIC450点以上

卒業時：「ハングル」能力検定2級以上、TOPIK（韓国語能力試験）6級のいずれかおよびTOEIC 600点以上

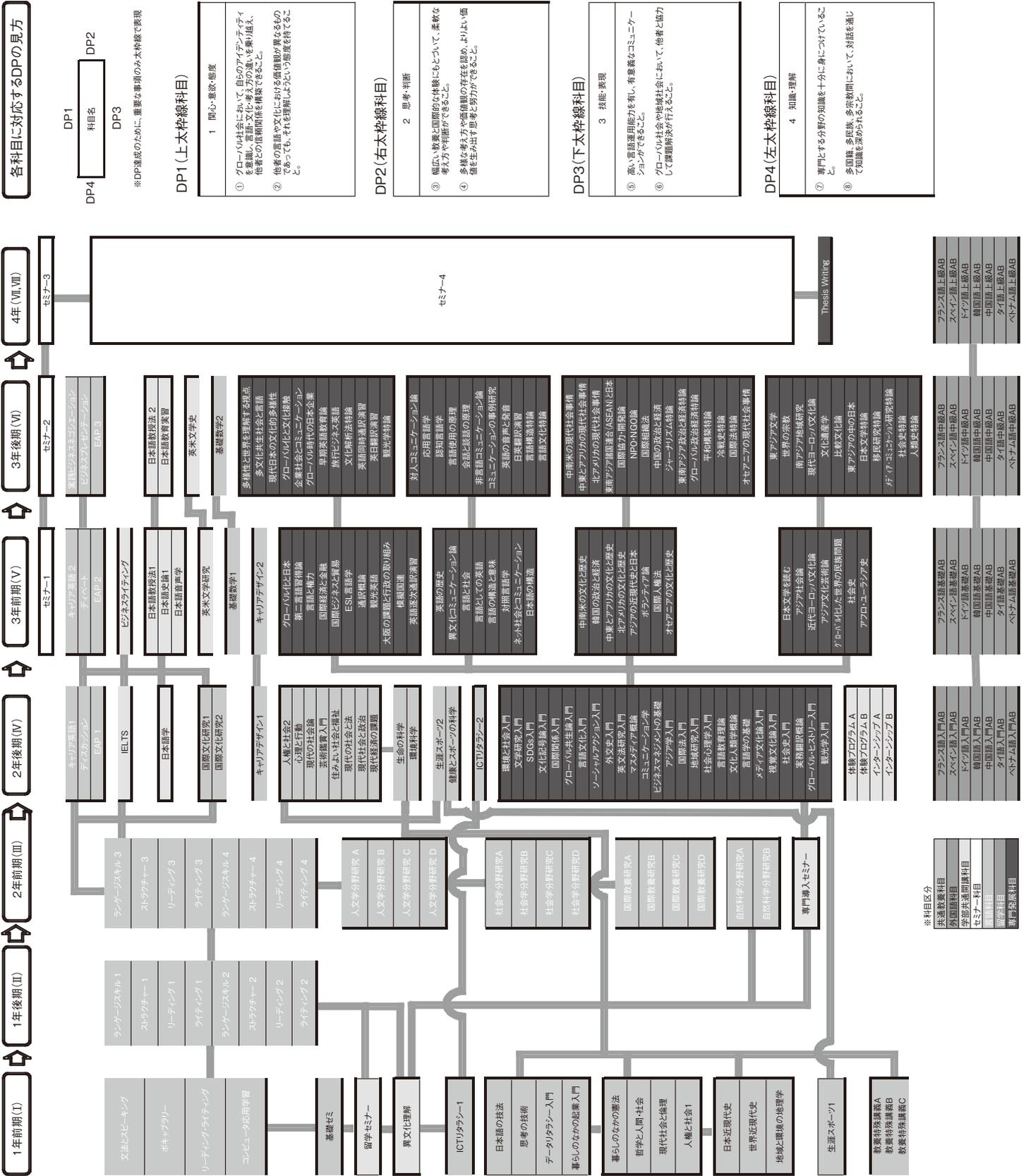
※グローバル専攻専門発展科目の開講学期は、年度によって異なることがあります。

各年度の時間割表を確認してください。

		3年次～					4年次～					卒業要件			
全学共通科目	共通教養科目	キャリアデザイン2 基礎数学2	2 2	選 選										各科目群の修得すべき単位数を含み10単位以上	必修科目を含み26単位以上
	外国語科目	フランス語基礎 A・B スペイン語基礎 A・B ドイツ語基礎 A・B 韓国語基礎 A・B 中国語基礎 A・B タイ語基礎 A・B ベトナム語基礎 A・B 総合英語 2A・B	各1 各1 各1 各1 各1 各1 各1 各1	選 選 選 選 選 選 選 選	フランス語中級 A・B スペイン語中級 A・B ドイツ語中級 A・B 韓国語中級 A・B 中国語中級 A・B タイ語中級 A・B ベトナム語中級 A・B 総合英語 3A・B	各1 各1 各1 各1 各1 各1 各1 各1	選 選 選 選 選 選 選 選	フランス語上級 A・B スペイン語上級 A・B ドイツ語上級 A・B 韓国語上級 A・B 中国語上級 A・B タイ語上級 A・B ベトナム語上級 A・B 総合英語 4A・B	各1 各1 各1 各1 各1 各1 各1 各1	選 選 選 選 選 選 選 選					
学部共通開講科目	日本語教授法1 ビジネスライティング 英米文学研究	2 1 2	選 選 選	日本語教授法2 日本語教育実習 英米文学史	2 2 2	選 選 選								必修科目を含み6単位以上	
	セミナー科目	セミナー1	2	必	セミナー2	2	必	セミナー3	2	必	セミナー4	2	必	8単位	
グローバル専攻	言語科目 習得科目(※)	キャリア英語2 ディベート English for Specific Purposes 2A English for Specific Purposes 2B English for Specific Purposes 2C	1 1 1 1 1	必 必 選 選 選	ビジネスプレゼンテーション 実践ビジネス英語 English for Specific Purposes 3A English for Specific Purposes 3B English for Specific Purposes 3C	1 1 1 1 1	選 選 選 選 選							言語科目は必修科目を含み13単位以上、留学科目は2単位以上	
	専門基礎科目 専門発展科目	専門発展科目(3年次～4年次) ※開講学期は各年度の時間割表を参照のこと(ただしThesis Writingは4年次の通年科目として開講)												100単位以上	
専門科目	言語科目 習得科目(※)	中国語プレゼンテーション1 中国語演習1 中国語表現技法2 ビジネス中国語2	1 1 1 1	必 必 選 選	中国語プレゼンテーション2 中国語演習2 中国語検定試験演習2	1 1 1	必 必 必							言語科目は必修科目を含み18単位以上、留学科目は2単位以上	セミナー科目8単位と学部共通開講科目と合わせて100単位以上
	専門発展科目	専門発展科目 ※グローバル専攻の科目を除き、前期に開講する(ただしThesis Writingは4年次の通年科目として開講)												2	選
東アジア専攻中国語コース	言語科目 習得科目(※)	韓国語プレゼンテーション1 韓国語演習1 韓国語表現技法2 ビジネス韓国語2	1 1 1 1	必 必 選 選	韓国語プレゼンテーション2 韓国語演習2 韓国語検定試験演習2	1 1 1	必 必 必							言語科目は必修科目を含み18単位以上、留学科目は2単位以上	セミナー科目8単位と学部共通開講科目と合わせて100単位以上
	専門発展科目	専門発展科目 ※グローバル専攻の科目を除き、前期に開講する(ただしThesis Writingは4年次の通年科目として開講)												2	選
東アジア専攻韓国語コース	言語科目 習得科目(※)	韓国語プレゼンテーション1 韓国語演習1 韓国語表現技法2 ビジネス韓国語2	1 1 1 1	必 必 選 選	韓国語プレゼンテーション2 韓国語演習2 韓国語検定試験演習2	1 1 1	必 必 必							言語科目は必修科目を含み18単位以上、留学科目は2単位以上	セミナー科目8単位と学部共通開講科目と合わせて100単位以上
	専門発展科目	専門発展科目 ※グローバル専攻の科目を除き、前期に開講する(ただしThesis Writingは4年次の通年科目として開講)												2	選

Ⅶ カリキュラム・ツリー

国際学部国際学科 グローバル専攻 カリキュラム・ツリー



DP1
科目名
DP2

DP4
DP3

*DP達成のために、重要な事項のみ太枠線で表現

DP1 (上太枠線科目)

- 1 関心・意欲・態度
 - ① グローバル社会において、自らのアイデンティティを認識し、言語・文化考え方の違いを乗り越え、他者との信頼関係を構築できること。
 - ② 他者の言語や文化における価値観が異なるものであっても、それを理解しようという態度を持つこと。

DP2 (右太枠線科目)

- 2 思考・判断
 - ③ 幅広い数量と国際的な情報にもとづいて、柔軟な考え方や判断ができること。
 - ④ 多様な考え方や価値観の存在を認め、よりよい価値を生み出す思考と努力ができること。

DP3 (下太枠線科目)

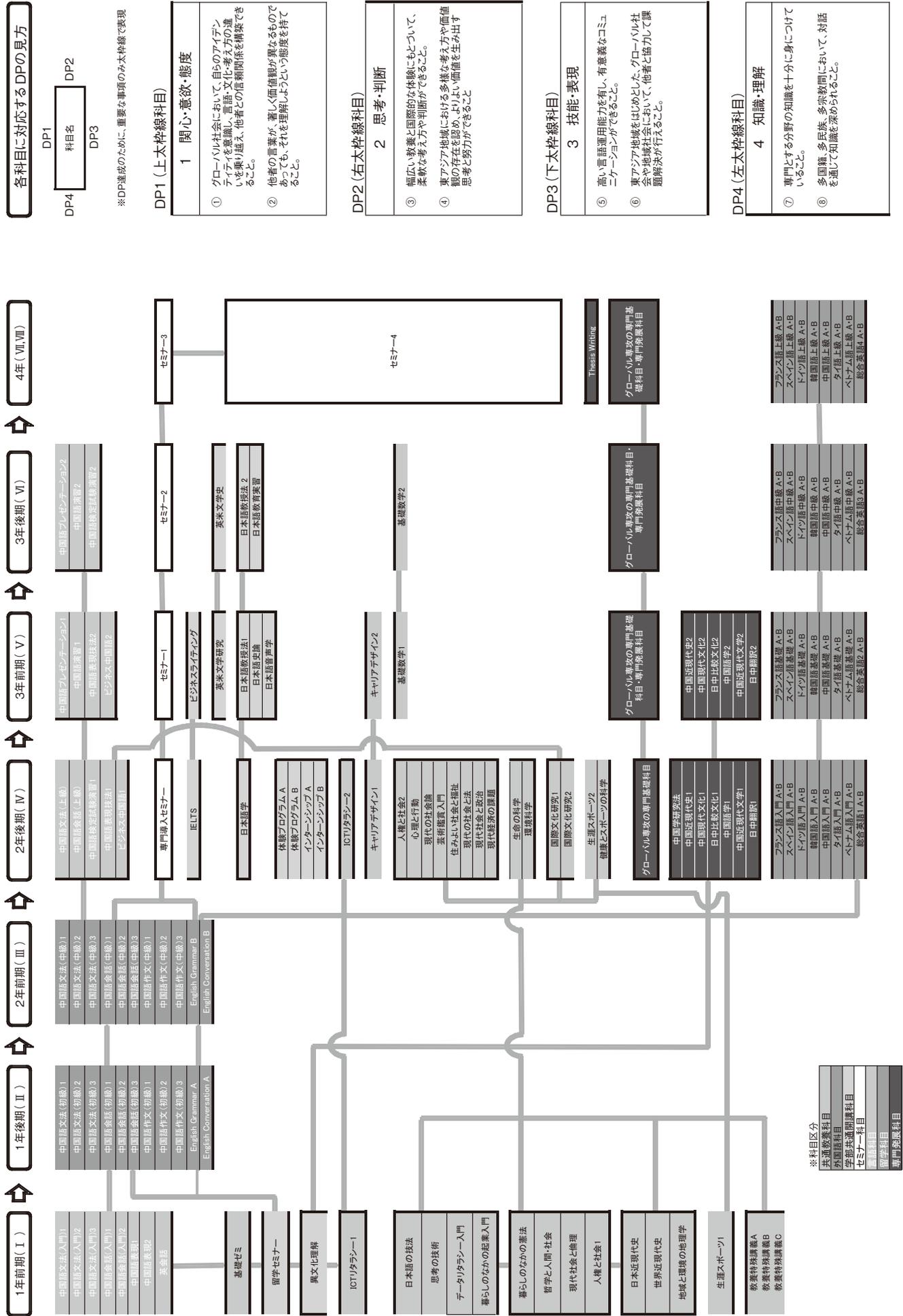
- 3 技能・表現
 - ⑤ 高い言語運用能力を有し、有意義なコミュニケーションができること。
 - ⑥ グローバル社会や地域社会において、他者を協働して課題解決が行えること。

DP4 (左太枠線科目)

- 4 知識・理解
 - ⑦ 専門とする分野の知識を十分に身につけていること。
 - ⑧ 多国語・多民族・多宗教間において、対峙を通じて知識を深められること。

※科目区分
共通教育科目
外国語科目
学際共通専門科目
セミナー科目
主修科目
専修科目
専門発展科目

国際学部国際学科 東アジア専攻 中国語コース カリキュラム・ツリー



各科目に対応するDPの見方



※DP達成のために、重要な事項のみ太枠線で表現

DP1 (上太枠線科目)

1 関心・意欲・態度

- グローバル社会において、自らのアイデンティティを意識し、言語・文化・考え方の違いを乗り越え、他者との信頼関係を構築できること。
- 他者の言葉が、著しく価値観が異なるものであっても、それを理解しようという態度を持つこと。

DP2 (右太枠線科目)

2 思考・判断

- 幅広い教養と国際的な体験にもとづいて、柔軟な考え方や判断ができること。
- 東アジア地域における多様な考え方や価値観の存在を認め、よりよい価値を生み出す思考と努力ができること

DP3 (下太枠線科目)

3 技能・表現

- 高い言語運用能力を有し、有意義なコミュニケーションができること。
- 東アジア地域をはじめとした、グローバル社会や地域社会において、他者と協力を課題解決が行えること。

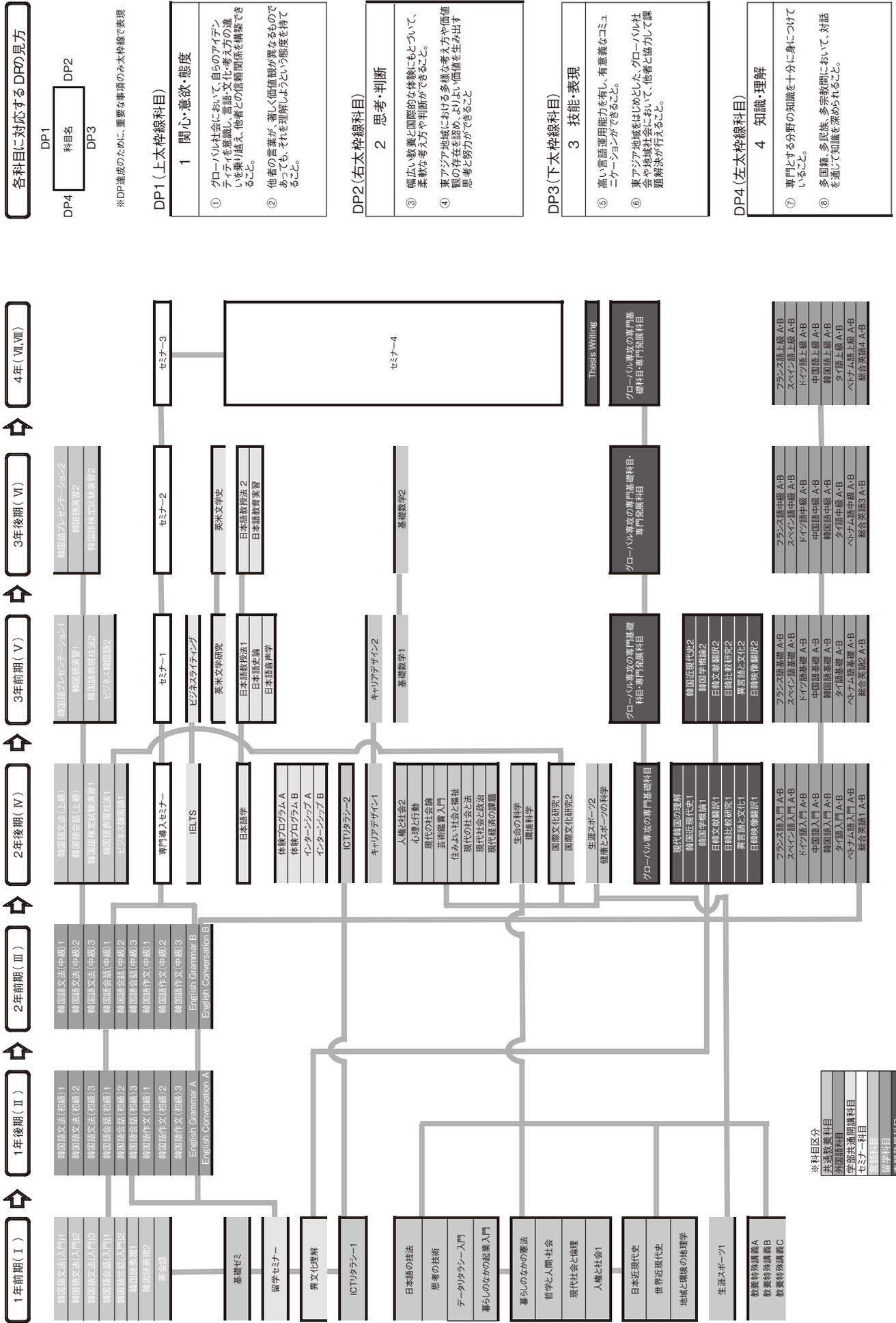
DP4 (左太枠線科目)

4 知識・理解

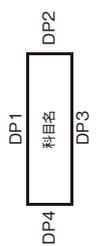
- 専門とする分野の知識を十分に身につけていること。
- 多国籍・多民族・多宗教間において、対話を通して知識を深められること。

※科目区分
 共通教養科目
 外国語科目
 学類共通開講科目
 セミナー科目
 留学科目
 専門発展科目

国際学部国際学科 東アジア専攻 韓国語コース カリキュラム・ツリー



各科目に対応するDPの見方



※DP達成のために、重要な事項のみ太枠線で表現

DP1 (上太枠線科目)

- 1 関心・意欲・態度
- グローバル社会において、自らのアイデンティティを意識し、言語・文化・考え方の違いを乗り越え、他者との信頼関係を構築できること。
 - 他者の言葉が、著しく価値観が異なるものであっても、それを理解しようという態度を持つこと。

DP2 (右太枠線科目)

- 2 思考・判断
- 幅広い教養と国際的な体験にもとづいて、柔軟な考え方や判断ができること。
 - 東アジア地域における多様な考え方や価値観の存在を認め、よりよい価値を生み出す思考と努力ができること

DP3 (下太枠線科目)

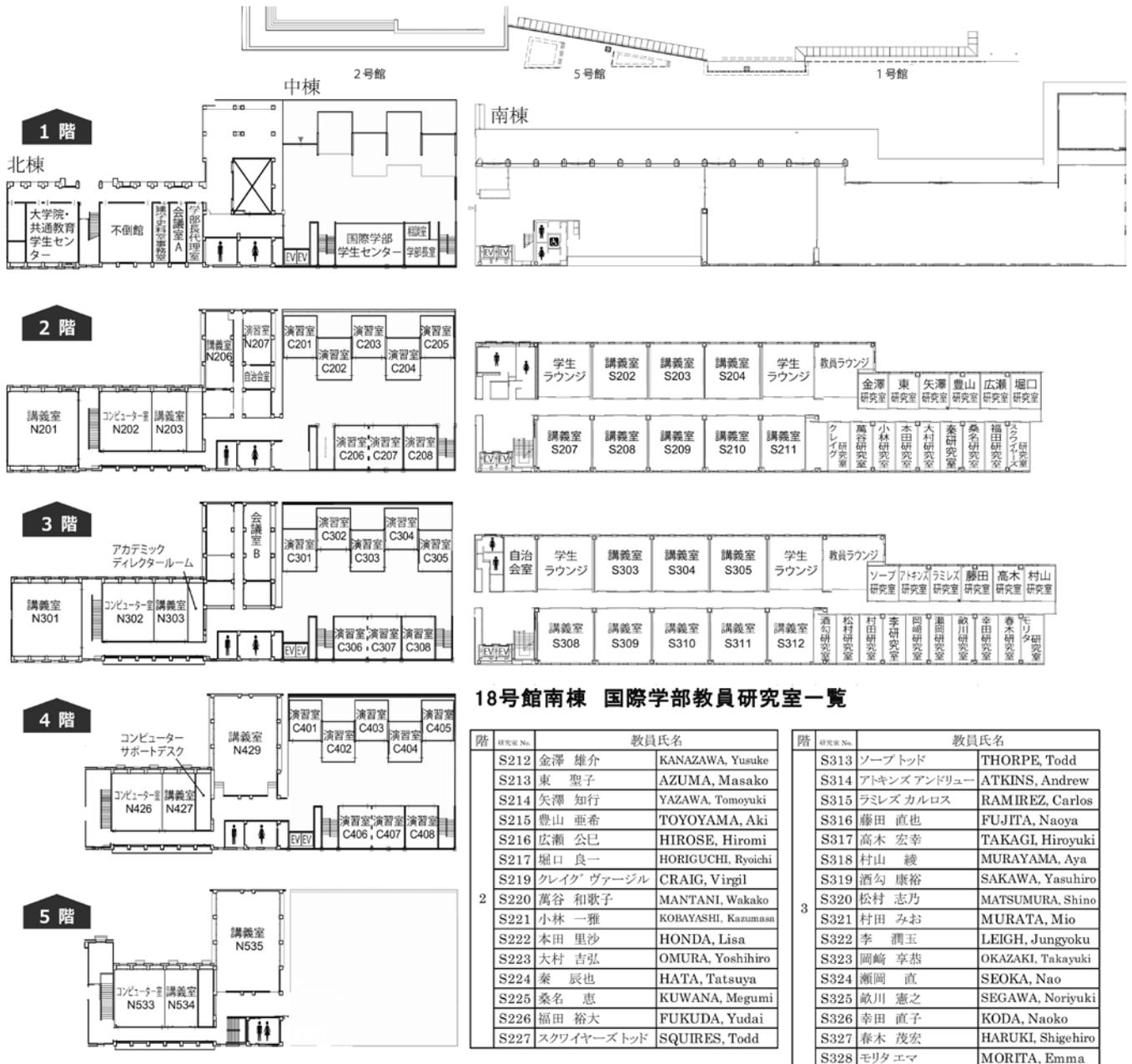
- 3 技能・表現
- 高い言語運用能力を有し、有意義なコミュニケーションができること。
 - 東アジア地域をはじめとした、グローバル社会や地域社会において、他者と協力して課題解決が行えること。

DP4 (左太枠線科目)

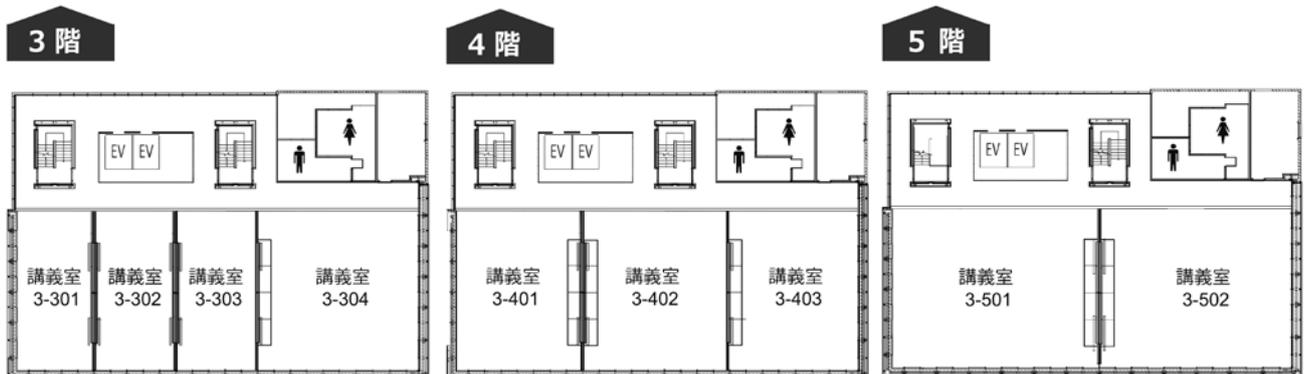
- 4 知識・理解
- 専門とする分野の知識を十分に身につけていること。
 - 多国籍・多民族・多宗教間において、対話を通じて知識を深められること。

VIII 校舎・講義室等の配置図

校舎・講義室等の配置図（18号館 北棟(N)・中棟(C)・南棟(S)）



校舎・講義室等の配置図（3号館）



中央図書館案内

学習・研究にあたっては、中央図書館（入口：10号館1階）を大いに活用してください。
中央図書館は、中央館（10号館）・ビブリオシアター（5号館）と3つの分室からなります。中央図書館を利用する際に、是非とも知っておいてほしい項目を下記に記載します。

利用の詳細については、中央図書館ホームページまたは中央図書館の各カウンターでお尋ねください。

1. 開館時間（中央図書館）

開講期：（月～土曜日） 8：45～22：00 閉講期：（月～土曜日） 9：00～18：00

試験期：（月～土曜日） 8：30～22：00 日曜・休日開館日： 10：00～18：00

※館内へは学生証を使って入館してください。

※長期休暇期間や大学行事等により、休館又は閉館時間が異なりますので、ご利用の際は、ホームページや公式Twitterにて最新の情報をご確認ください。

2. 貸出冊数・期間

学生：10冊 15日以内

院生：20冊 1か月以内

※貸出の際には学生証が必要です。

※長期休暇期間、前期・後期定期試験期間中は、貸出冊数・期間を変更することがあります。

3. 指定図書について（中央図書館）

「授業計画（Syllabus）」で教員が参考文献に指定した図書を配架しております。講義・実験・実習や定期試験等に活用してください。

4. 各種講習会について（オンデマンドによる随時開催など）

図書館では、より良いレポート・論文を作成するための情報収集法や、各種データベース・電子資料の使い方などを講習会形式でお教えします。どうぞご利用ください。

講習会の内容や申込についての詳細は、中央図書館館内掲示板、または中央図書館ホームページなどでお知らせします。データ

5. 電子資料の利用

学外からパソコン・スマートフォンで、電子ブック・電子ジャーナル・データベースなどを利用することができます。

中央図書館 URL

中央図書館HP <https://www.clib.kindai.ac.jp>

データベース学外利用 https://www.clib.kindai.ac.jp/search/db_vpn.html

蔵書検索システム（OPAC） <https://opac.clib.kindai.ac.jp>

中央図書館公式Twitter 近畿大学中央図書館 @Kindai_Clib



中央図書館HP

時間割表（履修科目を検討する際に活用して下さい。）

	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限
月							
火							
水							
木							
金							
土							

国際学部履修要項 2023

2023.4 印刷発行

発行者 近畿大学 国際学部

編集 近畿大学 国際学部

所在地 〒577-8502 東大阪市小若江3-4-1

電話番号 (06)4307-3104

インターネット版シラバス

下記のアドレスでシラバスを公開しています。

<https://www.kindai.ac.jp/for-students/syllabus/>

※専攻名以外にも、キーワードや、開講年次、単位、開講期、科目区分、必修・選択の別などの科目属性からシラバスを検索することができます。

 近畿大学